

阪神・淡路大震災

アマチュア無線運用と HAMボランティアの活動

(実状記録と反省そして更なる無線運用の構築に向けて)

神戸大学人社系図



02000025495

震災文庫 14-145

阪神・淡路大震災

アマチュア無線運用と
HAMボランティアの活動

〔震災記録と反省そして異なる無線運用の構築に向けて〕

阪神・淡路大震災で活動したアマチュア無線家有志

阪神・淡路大震災そのとき「アマチュア無線は」

平成7年1月17日（火）午前5時46分、兵庫県南部にマグニチュード7.2の大地震が襲い、5,500人余りの尊い命を奪い、負傷者は4,200人を数えました。そして約10万戸を越す家屋の全壊・全焼、又約11万戸の半壊・半焼、そして一部破損はなんと19万戸余におよびました。その為ピーク時には1,150余の避難所に約32万人を越す人々が難を逃れていました。

悪夢の一瞬から季節は留まることなく無情にも過ぎ、雪の舞い散る真冬から新緑の春に、暑い夏そして今は紅葉の秋へと、それに伴い人々の生活も避難所から4万戸の仮設住宅に、それから自宅へと少しずつ替わり始めています。しかしこれほどの大きな被害の後では復旧から復興するには更に長い長い苦難の年月がかかるでしょう。

地震という一瞬の自然災害の前に人間の無力さをいやという程味あわされ、無念の涙を流したものでした。又平常時ではただ気がつかないで過ごしていた、周囲の人達のすばらしい感性を改めて感じさせたものでした。

それは震災地の家族、住民同志に人が人を思いやり、手を差しのべる行為や、いち早く地震のニュースを聞くと同時に多くのボランティアの方々が駆けつけ、それが信じられない位の数に膨れ上がり瓦礫と化した町々に明るい灯のように人の心を暖めました。このボランティアの方々の大半は何時もは無気力がちと言われてきた若者であった事も本当に嬉しい驚きでした。

ところで趣味を通信とするアマチュア無線は、震災直後からどんな状態であったでしょうか。ニュース等で各種のボランティアや、団体の活動は時々取り上げられることが多かったのですが、アマチュア無線の事はほとんど報道されていなかったように思います。本来無線は聞いている不特定多数の人々に一斉通信が出来ますので、携帯電話よりも有効に利用され災害対策の第一位にも上げられる情報伝達の方法ではないかと思えます。そして今回の地震の各種官民機関の連絡が不可能な時にいち早く趣味のアマチュア無線が有効に活用、利用されればどんなに役立った事でしょう。

この初めての大きな災害の中で非常通信運用や、又ボランティア活動を通して通信運用をされ災害復旧、復興活動を支援していただいた多くのアマチュア無線家の皆さんは、度重なる難問や困難にも負けることもなく見事にその期間をやり抜きました。

しかし全てが初めての運用活動でしたので、周囲の被災者からお礼のプラス言葉よりも失敗や苦言怒りのマイナス言葉の方が多く、そのマイナス言葉の積み重ねをなんとかプラスにしようと努力した

連日でした。そしてこの運用等におけるの反省材料を糧にして、今後の無線運用の在り方を自ら問い勉強しました。

この方々の活動こそ賞賛に値するものです。この誌上で改めて感謝の意を表し、心よりお礼を申し上げます。

この小誌は、あの震災から6ヶ月の時点で無線に関わる人々が阪神・淡路大震災をどう体験し、どのような無線活動を行ったかについて振り返り反省した記録です。

災害の非常通信は多くの生命を救い、守り、その社会生活の資質を高めるように尽力することを使命としますが、大震災のような災害時にはどの様な役割を果たすのか、以前にはそれ程良く判っていたわけではありませんでした。

被災地に任んでいた人、被災地に駆けつけた人、その時就業していた人、職場に駆けつけた人、避難所等で新たな地域の課題に取り組んだ人、自分が被災者であった人など非常通信に携わる人々が体験した生の記録から、災害時には「何をするのか」「何が出来るのか」「何をなすべきか」を学び取る事が出来たのではないかと思います。

また二度とこの様な事が起ってはならないのですが、地震火国の日本は何時、何処でも似たようなことが起こるかもしれません。地震災害の規模は予知出来にくいにしても、被害を最小限度に食い止めるには、日頃からどんな準備が大切なのかを、今回の反省に基づいて作り上げることが大切な事だと思いました。

もはや平成7年1月17日に戻る事は出来ませんが、活動している中で「以前よりは暖かみのある通信が出来るようになるのでは」と語った仲間の声が忘れません。どんな時にも人は優しくなれるし、学ぶ事が出来るのだと気づかされた活動の日々でもありました。

この小誌はその様な思いから作り、全体は2部構成から出来ています。第一部はJARR主催の反省会の記録をまとめ、第二部は反省会の発言の根拠となる資料、それぞれの基地局の詳しい活動資料と参考資料、それらを基にして今後の理想とする非常通信におけるアマチュア無線の運用案等を纏め上げています。

本来ならば理想の非常通信運用案は大勢の人々で協議し、一つに纏めるほうが読む人にとって都合が良いと考えましたが、あえてそうしないで個人個人の考え方を手を加えることなく、そのまま網羅しました。その結果期せずして更なる非常通信運用の考え方は、何方も一致しておりました。

この小誌をまとめるについて、多くの方々のお力を頂きました。とりわけ被災地の方の災害直後の生々しい被災状況や「その時何を考え」「どう行動したか」「そしてどうしたかったか」「どうしてもらいたかったか」は、感動的であるだけではなく、深く考えさせる内容です。この様な資料の提供

をしていただきました皆様に対しまして心より感謝いたします。

第一部の非常通信運用の反省会を主催していただいた社団法人日本アマチュア無線連盟を始め、この反省会にご出席いただきましたJARL専務理事 海老澤 政良氏（JA1DM）同理事 有坂 芳雄氏（JA1HQG）司会をしていただきましたJARL大阪府支部長 宮本 荘一氏（JA3DBD）に厚くお礼を申し上げ感謝いたします。

又一方で、無線関係で頑張られたのに、今回お声をかける事が出来なかった多くの方々、さらに頑張りがたくても動けずにいる事で自分を責めておられるの方々、災害に遭遇し辛いことがあり過ぎて声を上げるのを控えておられる方々など、此処に登場していただけなかった方々が多くおられます。いやむしろその方々が多いのです。その事は心残りですが、いつか必ずもう少し広い範囲の方々の体験談をお聞きし、今後の為にまとめる作業が出来ると信じております。

そしてこの他にも数多くのアマチュア無線家の方々が、非常通信業務やボランティア活動を通して、無線基地局や災害対策、災害復旧、災害復興本部、ボランティアセンター等を支えていただきました。この行為に対しまして深く感謝し心からお礼を申し上げます。

最後に不幸にも近親者を亡くされたご家族の皆様に対しまして心よりお悔やみ申し上げます。更に被災された皆様の一日も早い復興を心より応援いたします。

小坂 雄一（JN3JLP）

平成7年11月

編集者有志（五十音順）

小坂 雄二（JN3JLP）

小中 幸雄（JQ3NVK）

茂村 裕史（JG3NFH）

谷 通好（JA3WGL）

長澤 道一（JJ3UXN）

楯尾 正一（JR3JUN）

1995年1月17日午前5時46分、淡路島を震源とする直下型地震（「兵庫県南部地震 M7.2」）が阪神・淡路地方を襲った。死者は5,502人（行方不明2）に上り、関東大震災（1923年）、濃尾地震（1891年）に次ぐ大惨事となった。

被害状況

死傷者（1995年5月23日現在 消防庁発表）

死者 5,502人（うち、大阪府21、京都府1）

負傷者 41,527人（うち、重傷者1,819、軽傷者25,029、重軽不明者14,679）

被害戸数（1995年5月23日現在 消防庁発表）

全壊・全焼 100,282棟（うち、大阪府876、京都府3）

半壊・半焼 108,402棟（うち、大阪府6,840、京都府3）

一部破損 185,756棟（一部に未調査あり）

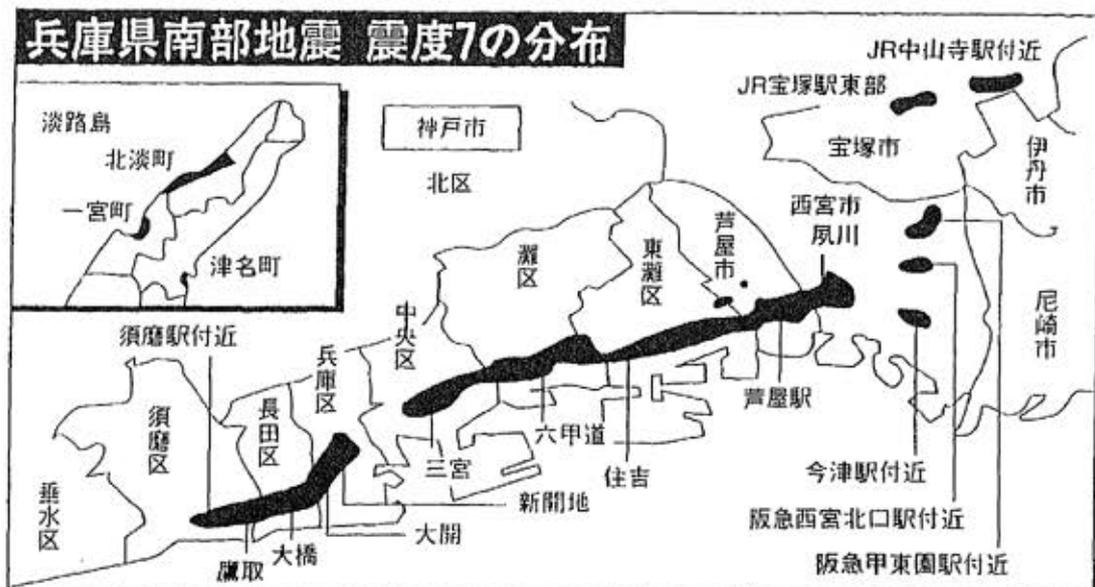
避難者数、応急仮設住宅（1995年5月8日現在 厚生省発表）

避難所数 536カ所（最大数1月23日 約1,150カ所）

避難者数 39,804人（最大数1月23日 約317,000人）

応急仮設住宅 完成38,399戸（目標4万戸） 入居23,701戸

長さ20キロ、幅1キロ 震度7、带状に分布



JARL関西地方本部主催の「非常通信活動」反省会

(1995年7月15日午後2時～6時：関西地方本部2階会議室)

出席者は順不同け敬称略とし()内は各基地局の運用場所

JARL役員関係

海老沢 政良	専務理事
有坂 芳雄	理事
宮本 茫一	大阪府支部長

宝塚市：8J3AMQ関係

長澤 道一	JJ3UXN
茂村 裕史	JG3NPH

大阪市：JA3RL関係

(関西地方本部内センター局)

橋尾 正一	JR3JUM
小坂 雄二	JN3JLP

灘区：8J3AMJ関係

(神戸学生青年センター内)

谷 通好	JA3WGL
宮崎 利光	JG3QXI
高安 繁彦	JR3LVP
杉本 大樹	JH3QVS
西川 一男	JG3QQR
真嶋 敬明	JQ3DSJ
澤井 清澄	JR3XTY

西宮市：8J3AMR関係

(市立福祉会館)

小中 幸雄	JQ3NVK
三村 昭一	JQ3TYL
服部 茂夫	JF3QYO

宮本：

今日の会合を始めさせて頂きたいと思えます。皆さん方は後ほど自己紹介して頂きますが、私本日という訳が一応進行役をやれと仰せつかりましたJA3DBD、大阪府支部長をしております宮本と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

私のほうからかいつまんでほしい今日の会合の経緯等をお話ししまして、それであと自己紹介というふうに進んでいきたいと思えます。

今回皆さんはそれぞれの立場でいろんな形で災害救援、災害復旧に協力され非常通信活動をなさいました。本当に長い間ご苦労様でした。

さて今回JARLでは災害対策プロジェクトチームが発足しました。それで本日は災害等の非常通信活動に於ける反省会と言う形で会合を持ちまして直接災害救援の現場で活動された皆さん方の率直な生のご意見をお聞きし、今後のいろんな計画、立案に当たりたいということでプロジェクトチームのリーダー海老沢専務理事、それからそのメンバーである有坂理事のお二人に東京から来て頂きました。

皆さん方のご意見は災害の非常通信活動だけでなく、何なりと、そういった会合にしたいわけがございます。

進行として出来るだけ皆さん方のフランクな意見をどんどん出してもらいたいと思えます。今後こういう事を機会に、JARLとしましても今後の救援活動とか、組織運営とかそういったものに率直に、スピーディーに対応できる体制を作りたいという事は皆さん方どなたも全部思っていることです。どうかそういうことで、その参考にしたいということですので、どうか宜しくお願いしたいと思えます。

それでは簡単に自己紹介をお願いしたいと思えます。そしてその後、専務理事のほうからご挨拶いただきます。

ナガサワ：

基地局は8J3AMQでやりました宝塚のナガサワと申します。また、遠い所からわざわざこの日のために来阪されましたお二人、又大阪支部長のお骨折りに対しまして有り難うございました。

私が言いたい事はたくさんあると思えますけれども、こういう機会が出来たということは皆さんのおかげだということで喜んでおります。

シゲムラ：

JG3NFH、シゲムラと申します。JARL大阪府支部のスタッフの一人です。今回の非常通信にはささやかながらお手伝いをさせて頂きました。

ハットリ：

JF3QIAのハットリと申します。基地地は広田小学校のほうでやらせて頂きましたが、表だっては声は1回も出しておりません。多分聞いておられる方は無いと思えます。私自体被災を受けたもので、後方支援のほうにまわってました。今後

とも宜しくお願いします。

コサカ：

コサカと申します。コールサインはJN3JLP。元々関東の方から来ていますので、関東コールのQJRIQZFもそのまま大事にして持っています。

私はこの非常通信業務災の時にJARLの関西地方本部に応募したのがきっかけで、JA3RLではオペレーターでもしようかと思ったのですが、JA3RLからはわずかしか運用しませんでした。

今回の災害状況を直接観たとき、JARL災害復旧対策の無線運用について最初から疑問がありました。そこで単なる無線運用と言う枠を外した活動をしました。それは12年前から行っている私共の海外NGO関係のネットワークを使って、そこにアマチュア無線をジョイントさせることで、効率の良い災害対策、救援活動が出来るのではないかと。少し皆さんと変わったやり方をしたので、皆さんとは多少ニュアンスの違う面があると思いますが、話しの中でいろいろと勉強させて頂きたいと思っています。宜しくお願いします。

タニ：

個人コールはJA3WGL、神戸のタニでございます。

今回の震災では基地局8JA3AMJ、灘区で皆さん方と一緒にボランティア活動をやりました。今日はこの会合に呼んで頂いて有り難うございます。

私どもの関係のほうから沢山来て頂いています。簡単にご紹介しておきますが、お隣がJG3QXIのミヤザキさん、同じく8J3AMJの灘区で最初から全期間活躍して頂きました。

奥さんが病院関係でございますので、後半の『卵ママ、ひよこママ』と言う妊産婦、乳幼児教室のボランティアの実行者でございます。

それからその隣がJR3LVP、お住まいは河内長野なのですが、河内長野と神戸とは大阪湾をはさんでお向かい同志でございます。通常では神戸の局同志がどうしても通信出来ない時は中継支援して頂くという形で、今回も災害発生時の通報とか、いろんな方面の協力者のタカヤスさんでございます。

給水車から18キロの水タンク運び



それからその隣が同じく東灘区の個人コールはJH3QVSのスギモトさん。

富安さん宅でJA3YRL局が開設されたのですが、最初、富安さんただ一人がオペレーターでした。これでは被災した家族の面会や、水道が破壊されて約200メートル以上ある急な坂道の下から高台までの水汲みは返は常識的に考えても無理と思い、私がJARLのほうに「富安さん一人ではJA3YRLはつぶれてしまう」「早くJARLから誰か応援をしてあげて欲しい」とお願いしました。同時に近くのスギモトさんの家へ電話をいれまして「手があればJARLかJA3YRLへ行って応援して欲しい」とお願いして長期間JA3YRLで活動して頂いたスギモトさんです。

こちらの方は、コールサインがJQ3DS、長田区のマジマさんです。

この方も、災害直後から非常に協力して頂きました。自衛隊からの飲用水の情報等の給水活動にいろいろご協力頂きました。

特に、28メガ帯FMで全国的に阪神地区の被災状況を連絡して頂いた方で、我々はVHFとかUHFでやりましたけども、HFでもそういう通信をなさった方でございます。特に発電機を持っておられまして、停電した時にすぐ発電機を起動して通信して頂いたのです。

それからその隣の方は、神戸の須磨区から来て頂いていますJR3XTY、サワイさんでございます。

この方も地震の最初から全期間ズーッとご協力頂きまして、特にお役所関係に非常にお顔の効く方でして、避難所のリストをいろいろ集めて頂いて、これを我々の関連したボランティアのグループの所に配ったり、あるいはJARL関西地方本部のほうにも配布し非常に役に立ちました。大阪の「一期一会ハムクラブ」とか、「ローパワーハムクラブ」とか、あるいは四国のクラブに呼びかけて、3回程にわたって沢山の乾電池を寄付して頂きボランティアグループがそれを有効に活用できました。

泉北のほうから来て頂きましたニシカワさんです。コールサインがJG3QQR。この方は本職が消防関係のお仕事をなさっていらして、救急などについても造詣の深い方ですが、8J3AMJにわざわざ泉北から泊まりがけで何回も、殆ど全期間ボランティアで来て頂いた方です。

コナカ：

コールサインはJQ3NVKのコナカと申します。

私は90年度にこの430MHzから開局、それ以後この名刺に書いてありますように「FTZFM愛好会」これはFour Three Zeroの頭文字でFTZ「430MHzのFM愛好会」ということで、約5年間この京阪神で約940局ぐらゐと交信し毎週土曜日オンエアーミーティングを行い274回返やっているグループです。

私どもの基地局は、8 J 3 A M Rと言いまして西宮市の福祉会館のほうでアマチュア無線を運用しましたが、他の基地局と比較して開局が遅れたもので大した事は何も出来なかったのですが、この場をお借りして、これから4 3 0 M H ZのF Mの運用がこの3エリアで、どのようにしてQ S Oを楽しんでいくか、私どもが今後どう活動をすればいいかなど、参考にしたいという事が出てきました。

4 3 0 M H ZのF Mが今回は救済波として使われたのですから、この周波数を日頃から如何に有効に楽しく運用していけるか、いま此処に来られた方で僕と交信されてる方はほん僅かですが。関西地区の4 3 0 M H Zの運用状態を知っておられる方はたして何人いるのかというようなことも、一つの疑問でしたし、いろいろと訊ねてみて、僕らも何か一つの足しにしてこれからもやって行きたいと思っておりますので一つ宜しくお願いします。

ミムラ：

私も8 J 3 A M Rの西宮の基地局のほうで運用させて頂きました。マイコールサインはJ Q 3 T Y Lのミムラと申します。

今コナカさんが言われましたように、F T Zのほうでズーツとお付き合いさせて頂いて、こういう災害があった時にも何か応援できないかという話しなどを時々コナカさんとお話しさせて頂いていましたが、今日こういう会議があるからということで来ました。これからも宜しくお願いします。

ハシオ：

マイコールがJ R 3 J U Mのハシオと申します。震災の後J A 3 R L本部で4 0日間ぐらいオペレータで応援させて頂いておりました。周波数の確保とかいろんな面で活動していました。

有坂：

東京から参りましたJ A 1 H Q Gの有坂と申します。皆さま災害の復旧活動の節はご苦労さまでございました。

今J A R I,そのものがいろいろご批判を頂いておりますけれども、今後どういふネットワークを作るようにしたらいいのかということで、専務理事を中心といたしまして、災害に対するプロジェクトというものを作りまして、その中でどういふふうに今後対処していくべきか。これはやはり、関西の一つの災害を参考にして作り上げていかないといけないだろうというようなことで、今日は皆さま方のご意見を伺わせて頂きに来た訳でございます。生の声が多く聞けるというチャンスは非常に貴重なものではないかと思っておりますので、今日は真剣に受け答えをさせて頂きたいと思っております。

また、今後本当に実用になるアマチュア無線連盟としてのエマージェンシーネットワークというものを完成させたいというふうに思っております。

屈託のないご意見を皆さまから伺い、反省すべき点、また今後留意すべき点というようなものについてしっかりと身につけて、今日は有効な時間をおくらせて頂きたいと思います。今日は参加させていただきどうも有り難うございます。

アマチュア無線の社会的評価が上がる

海老沢：

専務理事を担当させて頂いておりますJA1DMの海老沢でございます。

今日はこのような機会を設けて頂きまして、アリサカさんと私と参加させて頂き大変有り難うございます。また、この度の阪神大震災、非常通信に関しましては、本当に多くの方、アマチュア無線の方々にご協力頂きました。非常通信でアマチュア無線が大変活躍したということ、マスコミでも取り上げられておりますし、そしてそれなりに社会的な評価も頂いたというふうに考えております。これも此処にお集まりの皆さま方はじめアマチュア無線を実際に運用して頂いた方々のお力だろうというふうに想っております。

本当にこういう機会を戴きまして、宮本さんそれからお集まりの皆さん、有り難うございます。どうぞ宜しくお願いいたします。

いま有坂理事からのお話しもございましたけれども、JARLでは災害対策プロジェクトチームというものを作りまして、今回のアマチュア無線の方々の非常通信のご活躍、貴重なご経験、これを参考にいたしまして、連盟として、今後どうあるべきか、災害対策というのはどうあるべきかということ、詰めさせて頂いております。その為にはやはり実際に活動された方々の貴重な体験が役立つのではないかというふうに思います。

連盟でもっと早く皆さま方のお話しを伺えば良かったのですが、今日このような機会をつくって頂きまして、私どもとしては、本当に実際に役に立つお話しを聞かせて頂き、是非これからのアマチュア無線として、災害対策の救援にどうあるべきかという事をまとめていきたいと思っております。いろいろまとめる過程でも、またいろいろなお意見を頂いて、出来るだけいいものを、内容のあるものになりたいと思っております。今後も皆さま方のお力添えを添えてお願いしたいと思っております。どうぞ宜しくお願いします。

宮本：

今から実質的にいろいろ皆さん方のご意見を伺うわけですが、非常に巾が広いものだと思いますので、テーマを絞っていったほうがいいのではないかという意見があります。勿論、話しの中であっちへとんだり、こっちへとんだりということが当然あるかと思いますが、それはそれで良いとしまして、コサカさんまず冒頭にご意見でも何でも結構ですので、テーマを順番に出して頂いたらいいと思っております。

コサカ：

いろんなやり方があるのですが、それぞれの基地局となってる人達がどういう活動をして、何処に問題点があつて、今度こういう事をしたとか、こんな要望もあるとか、そういうものでやっていったらまとまっていくから、取り合えずそういうことをやりながら、それから最後にお互いの情報交換をしながらやったほうが良いと思います。

宮本：

各基地局から活動報告というような形を。

コサカ：

活動報告と問題点ですね。

宮本：

お願いします。それであと順次他の基地局えと全部回していきます。

非常通信の対応で関西地方本部の動きが不備

コサカ：

私のほうから先ず、始め1月24日にJ.A.R.L.でもって新聞に報道されて、1月28日にJ.A.R.L.関西地方本部の此処に集まって、それから2月の3日か4日までにあったの事を今お配りした書類の中に大体いまとめてあります。その中で私自体が疑問に思つてる事、これは勿論私の個人主観ですから後で皆さん「それは違うよ」と指摘して追加して頂いたほうがより正確なものになると思います。

私は此処に集められた時にいちばん疑問に思つたのは、この非常通信というものを団体としてどうもJ.A.R.L.は又は地方本部長がものすごく躊躇していた。それは集められた時に、本部長がよく言ったのです。「非常通信というものをJ.A.R.L.でやるのに凄く躊躇する」とどうしてかという、「過去にもそういうことをやった時にいろいろ批判する人がいた。それで団体としてこれを行うには、凄く苦慮している」と言われたのです。

それから一番目に書いてあるように、「郵政大臣からアマチュア衛星のバンドを認めて貰った」という。ところが非常通信やるのに、周波数を許可してもらわないと出来ないのかどうかという問題があつたのです。

次にこういう非常通信をやれば交替のオペレータというのは、大勢居ないといけないのでオペレータの募集は、いろんな方法を使って募集するべきだと思いますけど、J.A.R.L.関西地方本部はなかなかそれをやってくれなかった。

それから、被災地にボランティアを出そうという時に、いろんな人達が出ていくよりも、どこかのクラブ局を単位にして一つずつ基地局をお願いしたほうが良いだろうと思い、此処の事務局をお願いして、「J.A.R.L.の登録クラブに先ず協力の声

を掛けて貰えないか」と、それはクラブ局単位で各基地局にまとめたほうが、リーダー不足の折から混成の人々を一つの基地局に入れるよりは良いだろうということをお願いした訳です。ところがこれは「本部長の了解がない限り貴方の言う事は私たちはできません」というこの下の事務局の動きですね。

又JA3RLのオペレーターの人達は朝から夕方の7時までやってました。日曜日も。ところが此処の事務局の人は1月28日より非常通信という態勢になっていながら、定時で帰ってしまうのです。日曜日には来ないわけです。それから電話の受けなども、上手いかなかったです。「それは自分達がやることではないだろう」と、というような考え方を事務局の人がしていたのでしょ。私は全部だとは言いませんよ。初期にはそういうことがあったのです。

これは基本的な事で、非常通信を行っている地元の事務局が率先して動かないといけません。にもかかわらずそういうことが出来ていなかったのは、一体どうしてなのかということですね。

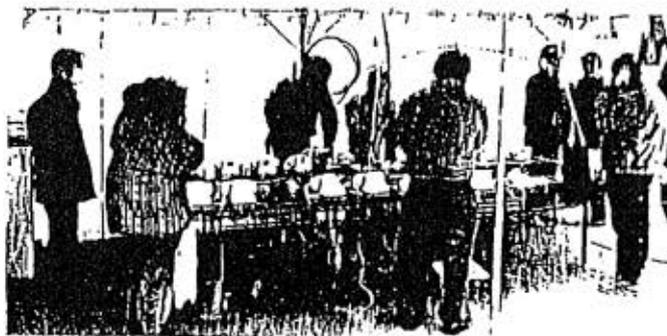
ハンディ機200台の配付先が判らず

それから、このハンディ機が何処へ配布したか判らなかつた。28日の席上に兵庫県支部の役員がいたのですよ。私共がもしかしたら使うかもしれないハンディ機200台が何処へまわしたか判らないという話を僕らにされたわけです。

それから「非常通信の3波はどういう人が使ってるのですか」と聞いたら、トラック関係者だと言われたのです。トラックのアンカーの人に向かってそのバンドを確保するほど難しい事はないわけです。相手は無法局ですから。だからこの周波数は動かせるようにして貰いたい。勿論連絡用にはその3波を使うべきですが、個々の基地局が出来た場合はその配下では使用する周波数は自由にさせてほしいと言ったが、「いやJARLとしては、この3波しか使ってはいけない」のだというふうに言われましたね。

私は当所1月18日にFMが混信で使えないから、実はSSBの周波数帯をFMで使ったのです。それで安否連絡をやったことがあるので、そういう周波数を使ったほうが、通信をやるのに楽だと。特に非常通信をやるには、正確で混信のない状態で非常通信やるというのが建て前だろうと思います。だから臨機応変を認めて貰えないだろ

うか」と言った時に、これも駄目だったのです。



テント小屋での仮設電話

連絡不足から無駄なトラブルが続発

それから、非常通信をやるのに、時期的には1月28日ですから、災害を受けてから10日経ってますね。その集められた時に、本部長が皆に「さあ、これから何をやりましょうか」と言われたのでは、私たちはどうしようもないですよ。何をやりましょうかと言ったって、何かの目的があって呼び集められたのだから、主催者が案を持っているのが当たり前です。仕方がないので、私の持つてるネットワークの中で、「長田区のAMD Aの医療のなかで、岡山のほうから来てる武鐘さん達のグループの無線局長が風邪でダウンしてるから、そこへ交代要員を出してくれと言われてるから誰か行ける人がないですか」ということを席上お願いした所、関西地方本部長にも賛同を頂き、此処に来ていたJA3QVQの増石さん達が、翌1月29日の日曜日に長田区役所に行き岡山と大阪の局長がすぐ交替し大阪向けのアンテナの調整もしたのです。

しかしそれが今度は兵庫県支部からクレームがついてしまったのです。直接に僕は兵庫県支部の人とは話しはしてないのですけども、要するに「兵庫県支部の了解なくしてやった」と。ところが私達は関西地方本部で集められて、関西地方本部のJA3RLがメイン局で、そのサブにJA3YRLが出来たので関西地方本部で決められた事は当然兵庫県支部に伝わっていると思い動いてしまったのです。どうもそれがそうでなかったみたい。つまり連絡が全くされていなかったのです。

その後も兵庫県支部と関西地方本部との間にいろんな行き違いがありました。これは長田局以外にも、東灘局を作った時にも同じ様なクレームを受けました。

そのようなことがあったので、私はJA3RLのオペレーター人達は、実際の現場を観ておいた方がいいと言う事で、JA3RLの有志のメンバーを集めて2月11日に今日此処に出席されているハシオさん達と一緒に弁当持参で1.5キロ程歩き、それぞれの基地局、避難所等を見学しながら各地でいろんな要望、意見を聞き、それをすぐ関西地方本部長に報告したのですが、どうもその結果の答えが正確に各基地局に伝わらなかったみたいでした。

私が勝手に最初に作った組織表というのはいちばん最後のページぐらいにあると思うのですが、JA3YRLというのはJA3RLの下にあって、JA3YRLが各基地局をコントロールするのだということだから、そういう組織表り配布しました。それは当所此処の本部が作ってくれませんでしたから。

活動内容の内各ハンディ機が何をやればいいのかということも判ってなかったし、基地局は何をやればいいのか判っていないので合わせて活動内容を作り各基地局に配布しました。ですからJA3YRLは毎日の活動の定時放送をやるのに、自分達の活動しか報告してくれなかったのです。

その後基地局が出来たにもかかわらず、それを把握してJA3YRLが報告することはなかなかしなかったのです。特にタニさん達のグループは別の時間帯で自分達の1日の活動報告を独自にやっていたわけですから。これを聞くと1日の出来事と活動内容が判り、非常に良い連絡情報活動でした。最後の方になってからタニさん達のほうからJA3YRLにクレームが付きそこで他の基地局の情報を一部収集して電波上で流しましたね。

それからもう一つは非常通信3波の件については、関西地方本部が動かないから、私は直接東京に電話をして、特にいちばん問題になった「周波数について変更させてくれ」と、「この3波じゃない所へ是非動かさせてくれ」と言ったら、「それは当たり前ですよ、では本部から関西地方本部に連絡し、3波の周波数以外の所でも自由に使う様に連絡します」という事でした。がその後何も変わっていません。結果において最後の最後までこの3波しか使えないということ、誰かが皆に吹聴してしまったから、混信があろうが何があろうが、この3波しか使わなかったわけですから。

日頃QSOしている者同志が主体で初期の基地局を構成

そういうような疑問点が、私なりにかなりあったのです。それについては此処に書いてあるのです。

ただ問題はそういうことだけではなくて、実際どういう事をこれからしなきゃいけないかと考えたときに、実際に皆さんの動きのなかを観ながらいろいろ検討してみると、やっぱり基地局を作るというのだったら、日頃から同じにQSOをしている仲間だとか、何かのグループの人同士が一語に基地局に入るのが一番有効だと思いましたね。気心も知れてますし、何回もアイボールしてるからまとめることも出来るわけですね。

ですから、そういう人達が一つの基地局に入れば、一番有効ではないかと勿論中身は別としても。しかしそういうのが幾つも出来た時に、それを誰がコントロールするかということです。

だいたい人間のコントロールの範囲というのは、6人について一人居るとというのが原則らしいですね。例えば局が6局あったら、そこに一つのメイン局がないとコントロール出来ないだろうと、これは組織上の鉄則みたいなもので、そういうことでやれば、いいのではないかなという考え方はありますね。ですから、12局基地局が出来れば、2局でもってコントロールしながら、その上にヘッドがあるというようなやり方をします。ただ、これは今回みたいに神戸みたいに細長い地域で災害が起きた時は、基地局は幾つも出来ないといけないのですけども、そうではない極地的に起きた時や、もっと狭い範囲で起きた時は、1局で全体をコントロールすると

いうやり方はあるべきだと思います。

この様に基本的にはよくアイボールしたり、よく一緒に活動してるグループが1基地局単位として動くというのが、ハンディ機を持った人達を有効に動かす場合に便利だろうというふうに感じましたね。

そんなことで皆さんからのいろんな話があったら補足もさせて頂きたいというふうに思います。

円滑な運用は平時からの地道な指導と協力

ハシオ：

ほとんど今コサカさんがおっしゃったようなことで、この周波数の確保というのは各基地局さん、ハンディ機の局は、今回ほど痛切に難しいと感じられたことはないと思いますけどね。

いわゆる周波数を確保するといっても、アマチュア無線家の人口からいえば、JARLの会員というのは微々たるものでしょう。アマチュア無線連盟に加入していない人の周波数の指導というのは、今後の問題としてものすごくクローズアップされたと思います。

とにかく不法無線局が430MHzを使用していると、「ここを使っては駄目だからちょっとあけてくれ」と言っても「私はアマチュア無線連盟とは関係ない」と、こういう言い方をする人が沢山居るわけです。だからそういう人達に指導するということは今後の問題として、大変大きな負担が掛かると思います。

我々会員がJARLニュース等を読みながら今回の7月号などでも「周波数の使用は今後こういうふうになります」ということを、仮に既に覚えておっても、無線免許を取った人がそのままJARLに入会しないと、そういう人達にいくら「こういうふうに周波数の割当がありますよ」と言っても、末端まで行き届いてないわけです。10人のうち一人ぐらいが知っていただければいいほうですわ。後の9人に「此処は駄目」「此処は使ってもいい」ということは、絶対徹底しませんね。

こういう今回のような災害があった場合に「此処の周波数は確保するのだ」「此処は使っては駄目だ」というのは絶対無理だと思います。今の状況ではね。そこらの指導が今後のJARLの大きな課題だと思いますし、コサカさんが書いてある様に、1月28日に新聞によって集められた時に「何をしましょうか」という相談を持ちかけられたということ自体JARL立ち遅れたと。先ほども言われたようにハンディ機を配布したけれども、無線の運用が十分に理解出来ないような人に渡してしまったとすれば、3日もすれば電池が切れて無くなってしまって使用不可能だと。

そういうような状況のなかで、2月11日にいろんな被災地と基地局を回らせて頂きましたけど、その時に芦尾の基地局でしたか救援活動グループとタイアップし

て非常に上手く無線が活用されていたのに感心しました。

いろんな問題が多々あるけれども、今後JARLとしてそういうバンドだけではなしに、シャックに何百万掛けてる人もあれば、中学生、高校生ぐらいに何方ぐらいの無線をして喜んでる人も居る。そういう人達の中から自発的にボランティア活動に参加し易い様にする時には、どういうふうに統括して、どういうふうに運用するかということが今後の課題で後ろを振り返るよりも、積極的にそういう事に踏み込む事が必要でないかと補足としての意見なのですが。

随時メインで非常通信運用の通報を行う

タニ：

コサカさんは、我々の核心をついておられるご意見を出していらっしゃるのその他に私が感じた事を3つほど申し上げますと、まず、今回非常通信をやられましたね。その時にアマチュア無線局の人が非常通信があるということを知らない人が非常に多かったですね。電波上では一度も公表されてなかったような感じがするのです。テレビとか一部新聞に出たのですけども。未だに交信しても「非常通信などやってたのですか」というハムが非常に多いのです。

だから、例えば430MHzのメインで、「ただ今何処の周波数で非常通信やっていますから、皆さんご協力して下さい」ということを、何度か通報すべきだったのです。

初期にコサカさんが書いていらっしゃるんですが「妨害があるので非常通信をしている周波数を明らかにしない」という意見があったようですけどね。私は積極的にJARLに毎日の運用を開始する前にメイン周波数帯で「現在非常通信活動をやっていますので皆さんのご協力をお願いします」等のアナウンスしてくれと何度か意見具申しました。

だから、やはり今後、何処の地区でもそういう非常通信が行われた場合は、免許を持っている者は、少なくともそれに興味をもってますし、聞こうという気がありますので、必ず非常通信をやっていることをメインで時々通報してもらいたいということです。

それから、非常通信の周波数について、どの周波数を指定しないと非常通信がやれないということは、法的には決まられていません。何処でも空いている所は何処の周波数でもいいのです。

だから、この間の場合は長丁場でしたから、老婆心でこの連絡周波数を設けておいたら、それで皆がまとまっていだらうということでしたのでしょうけども、実際非常通信は決められた周波数でやるものではないと、私は思っておりますし法的にもそうではないかと思えます。

今回の非常通信は特別な周波数でやった為に、そこにたまたま常時アンカバーのトラックとか、ダンプカーの連中が使用しており、業務用に使ったので立ち退かなかったのですが。

実は私の報告書のいちばん最後に書いてますが、先週の7月6日に灘区と東灘区に大雨洪水による避難勧告が出たのです。たまたま私はこの時にテストも兼ねまして、メインで出まして「避難勧告が出てますから皆さんご協力下さい。出来たらQSOはサブチャンネルでして下さい」ということを何度か発報しました。非常に協力がよかったです。地震の時は非常に悪かったのですが、この間の大雨洪水の時は非常に協力がよかったですので驚きました。本当にリグがつぶれたのかなと思うぐらいにシーンとしまして驚きました。午後の3時頃からは無変調が一部出てきましたけどね、朝から午後3時までには非常にクリアーでした。あんなのは始めてです。

だから、この報告書にも書いてますが、一部トラックの連中が荷物の積みおろしで「やかましいワイ」と文句を言ったのが一件ありましたけれども、それ以外は随分協力的でしたから、やはり非常通信をやるときは、メイン周辺で空いてる所で行えば、大体免許を持った連中が多いですから協力してくれると思います。ですから、特別な周波数を設ける必要はないと思います。これは参考に報告書に書いてありますから。

それから、最後に各種のクラブ局所属の方が一基地局一クラブ単位で応援してくれたら非常に効率良く、しやすいのではないかという意見がありましたが大賛成です。尼崎のコナカさんが日頃より非常に良い無線の運用をしていらっしゃるんですが、これは今後につないでやって行こうかという事ですから、その辺のところまたコナ



解体作業の埃が多くマスクで覆う老人と付き添いボランティア

方さんからも説明を宜しくお願いしたいと思います。

コサカ：

タニさんから言われたなかで、非常通信の3波をシークレットにしようという考え方というのは、一体何処から出てきたのでしょうかね。その時にもだいふ問題になったのです。その時では、「何故シークレットにするのですか」と聞いたら「妨害波が余計にその所へ入り込んで妨害するから、その周波数をシークレットにしておかないといけないから、マスコミに出すのもどうかな」と、いう考え方なのです。解らない訳ではないですよ。非常通信をやるのに変なものが入ってくるのは嫌だから、それはシークレットにしよう。しかしもっと大局的にみて「非常通信のあり方はどうあるべきか」と言ったときに「何故そんな周波数をあえて指定して使ったか」というところが問題ではないでしょうか。

ハシオ：

これしかし、3エリアで1エリアにいったらこんな話しは通用しないのと違いますか。

コサカ：

しない、しない。

ハシオ：

問題はそこらにある。

非常通信周波数が決まる迄の経緯

宮本：

周波数の話しね、専務理事は3波を決めた経緯をお知りですか。

海老沢：

私は、最初に使った周波数はちょっと知りませんでしたけれども、「非常に混んでてやりにくいので、是非衛星バンドで使いたい」という連絡を受けまして、すぐ郵政に口頭で頼みました。その結果をいれて大事な周波数なのでそちらにお任せしました。ただ「一番使いやすい周波数だということで決められた」と言うふうには聞いてます

コサカ：

それは誰が使いやすいと言ったのですか。此処の周波数が。

宮本：

恐らくそれは関西の誰かがしたのですかね。私もこれに決まったということしか知りませんね。

コサカ：

今海老沢専務理事が言われた衛星バンド使う、「非常通信するから衛星バンドを

使わせてくれ」ということは、断る必要がないのではないですか。

海老沢：

基本的には、私も断る必要があるかないかは正確には分かりませんが、ここでは断っておいたほうが全く問題ないということです。

ですから、非常通信ですから、一番使いやすい周波数を使うというのが原則だと思ふのです。

ただ、断っておいたほうが良いということで、私のほうでやりました。

コサカ：

周波数を使用する事と、ハンディ機のコールサインが、今回は8 J 3のAAAから貰いましたね、即日免許というのは確かに郵政省に言って頂いて、あれは便利だったと思います。

しかしコールサインをすぐ使っていい承認の許可と、使用周波数を事前に報告するのは別な問題ですね。何かこれが一語になってしまった様ですね。

宮本：

でもないのでしょうかとも、要するに・・・

コサカ：

だけど、そうでしょう、JARLのニュースを見てもCQ誌を見ても、両方の事を一語にして「郵政省の大英断」と、こう書いてありますよ。

大英断というのは一体何かと言うと、コールサインを直ぐにくれたというのが大英断ですよ。郵政省が「JARLからの報告により衛星バンドの周波数帯を使う事は判りました」というのは、大英断でも何でも無い当たり前のことなのです。それ等と一緒に書いてしまえば読む人は両方が大英断となってしまうのです。もっと正確な報道を要望したいですね。

だから、非常通信がよく解らない人は、周波数は与えられた所しか使用してはいけないというふうになってしまうのです。昔のリグの使用説明書、あの一番おしまいのページに非常通信周波数というのが必ず書いてありました。今のリグの説明書には何も書いてません。使用バンドが。

何処かで書いてあったのを見たのですけどね。本当かどうかよく知りませんがJARLというのは、いわゆる自分達で周波数をコントロールして、多少電監と離れたわけです。「アマチュアバンドの内で違法局があれば、それはJARLが監督指導しなさい」と、「それは電監がやることではないですよ」という委託業務を受けたと。けどJARLがバンドをクリアにするという活動が一体どの様にして、何処までやられているか一会員にはなかなか判りません。

関東の430MHzの運用は関西程乱れてはいないので、なんで関西がこんな様になったのか、何が問題であったかという、それはやはりJARLの指導力の無さだ

と思いますよ。もっともっと上手く運用するやり方や、指導が幾らでもあるだろうというふうに思います。

宮本：

周波数の、要するに2メートルにしる、430MHzにしる、特に3エリアの場合、非常に混乱が大きいというのは、これは勿論、私は全部とは言いませんけども、JARL自体の責任というのは、当然あるとは思いますが。

但し今回の場合、何故その3波を指定されたのか私も解らないです。

コサカ：

兵庫県支部の人からの話しでは「兵庫県支部で430MHzの明き周波数をチェックした時に、一番空いていたのがこの周波数帯だからそれを言った」そうです。

宮本：

兵庫県支部辺りから話しが出たのですか。

コサカ：

と聞いてます。だけど何時頃其処を調べたか、それは知りませんよ。しかし430MHzを良く使用している人ならあそこは全部アンカバーの人達が業務用に使ってることは判ってることですよ。

だから、そういうのは過去の問題として、それに対して質問しても今まで答えてくれなかったという事に対して、私は凄く疑問に思ってた訳です。

それから、今言いましたように、JARLの機種認定もそうでしょう。JARLでやってるわけでしょ。保証認定。

有坂：

保証認定は今、財団に・・・

コサカ：

財団であろうがなかろうが、会員はあまり細かいことは分からないので。財団に移行しようが何しようが、いわゆるそういう財団と、それから無線機XX協会とかいうのがありますが、元来、昔はアマチュア無線連盟しかなかったのですよ。そこから枝派が分かれたのでしょ。ですから保証認定などはJARLで最初にやったことですよ。、そうでしょう。今言ったようにメーカーの機器使用説明書、そういうものだってJARLとして何時も指導として目を付けておかないといけないですよ。今の新しい人にあの使用説明書を見せて、非常通帯帯は此処ですよと言っても、何も書いてないとわからないですよ。

事務上かも知れないけど、細かい所が結構抜けていってしまって、だから私はこの事務局にもの言っても、「貴方達の会費で給料を全部貰ってるのではない」と、こう言われればどうしようもないですね。

私達はJARLの会員だから、此処は自由に使っているのかなと思うと、そうで

はない。JARLでの費用分担は2割しかない。あとは別な所から出ているほうが大きいから、「貴方達一般会員の言うことを聞くべきものではない」と、僕はJARLの会員でありながらJARLは一体何処へ行ってしまったのだろうというふうに思う場合もなかにはあったということですよ。

それで非常通信になって初めて私も、こういう場所に出入りして、こういう活動をして初めて臆げながら、JARLとは、無線振興協会というのはこういうものかと初めてわかったので、そういうものが判っただけでも僕はJARLにお礼を言いたいと思いますね。

通信の団体であるJARLに非常通信体制がなかった

宮本：

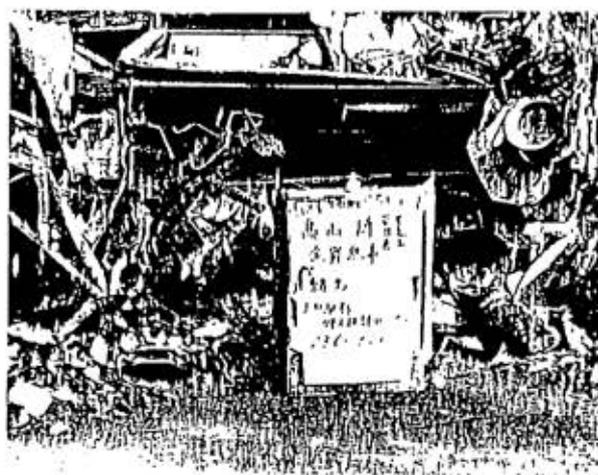
周波数、3波のご指摘がありました。ちょっと私もその辺が判らないので、それはさて置きまして、いま、コサカさんがいろんな問題を指摘されて、疑問点、問題点、列挙されたわけなのですが、それで一応私のほうなりに、JARLの組織のなかに居りまして、一応JARLはどんな事を行ってきたのか、私なりにお話してみたいと思います。

まず、最初に、1月23日付けで、専務理事名で、各理事および支部長宛てに支援要請というのが来ました。それで、大阪支部では1月25日付けで、大阪府下の登録クラブ宛てに、協力要請を出しました。約70団体ぐらいありますけども。

先ほどから何度も皆さんがご指摘されてるように、JARLのなかで、こういった大震災における救援体制、非常通信の体制、そういったノウハウはほとんど無かった。これはもうハッキリ言えると思います。これは私どもが当然反省しないといけません、全くそういったことがなかった。

私自身個人的にハッキリ言いまして何をやっていいかわかりませんでした。実際そうだったのです。取り合えず、専務理事からそういった連絡が来たので、先ず、登録クラブに協力を要請しようということで、25日に協力を要請しました。それから次に2月5日に、今度は関西地方本部長名で同じような内容の支援要請が各支部にありました。

従って、私は2月10日にもう一度各支部役員および登録クラブ宛てに、



いたる所に安否と避難先の知らせ

もっと具体的に、特に東灘区役所の辺りの基地局に人数が不足でしたので、人員の派遣要請、そういったのも含めて2回目の文書を出しました。ところがハッキリ言いまして、もう2回文書を出しましてもどれだけ効果があったかは全く疑問です。私のほうに直接電話があったのは2件ぐらい。あとは事務局のほうの電話番号も書いてましたので、事務局のほうにあった場合もあると思います。

しかしこれはコサカさんのほうが2月1日の朝日新聞に記事掲載を依頼されて、2月2日に掲載されてますから丁度日にちが重なりますが、実際その日からどんどん此処に電話鳴り、問い合わせが集まって最終的には500件近いボランティアが登録されたわけです。これは恐らく新聞の効果が大きかったのも、要するに私が出した合計140か150通の登録クラブ宛ての文書というのは殆ど機能しなかったと判断します。

これは何かと言うと、私自身の反省にもなりますが、こういった災害時において、いわゆる通常のJARLに登録しているクラブというのは当てにならない。私はそういうふうに判断しました。むしろ、そういった非常事態においては、組織を別に作っておくべきです。

また、一個人のそういったボランティアに頼らざるを得ない。でないとJARLの今の組織といいますか、また支部のなかにおける登録クラブなどは、登録したら登録クラブになりますから、ただそれだけのことでいろんなクラブが入ってるのです。特に制約も何もありません。非常通信の時にはこういうふうに活躍しないと、そういった制約も何もありません。実際にはそれを活用する事は全く当てになりません。

支部役員が約15名ぐらいが大阪の場合居ります。実際にハッキリ言いまして、私のほうから文書をだしたり、いろんな連絡をしまして実質的に動いたのは半分ぐらいです。あと半分は支部役員さえ全く動かない。そういった現状をハッキリ申し上げます。ご参考までに。

コナカ：

周波数の問題等々についていろいろ議論されてると思うのですが、JARL関西地方本部、兵庫県、大阪含んで、2メーターのFM、430MHzのFMというのはアマチュア無線局の運用だと考えられておりますか。その辺を一つ聞きたいと思えます。

というのは、あるトップの方々が、「あんなものはもうパーソナルにやったらいいのだ」と言うようなことも少し聞いたこともありますし、その430MHzのFMというアマチュア無線バンド、このバンドを関西のJARLの役員の方々がどう考えておられるのかと一つ聞かせて頂きたいのです。

宮本：

ここに関西の役員は私一人しかおりませんので、私個人としましては、支部長としまして、これは確かにいろんな問題があります。しかし、430MHzも2メートルもアマチュアバンドです。

従って、しかも大阪府下のいろんな登録クラブでそういった所をメインに活躍されてるクラブはたくさんおられます。また、そういった方は支部活動とかそういったことに非常に協力して頂いてます。そういった点で、当然それは含まれるべきであると、ましてや今おっしゃったように、それがアマチュアと違うということは絶対言うべきではありません。実際にはビギナーのバンドとして430MHzでも極く一部かわかりませんが、非常に秩序だって使用され、メイン周辺は私が聞いてましても非常に整然と交信が行われています。当然そういった点からして無視すべきではないと私はそういうふうに思います。

不法局の対処も日頃の運用次第で解消

コナカ：

と言いますのはね、今、コサカさん、タニさん達が言われてるように、普段からその周波数の状態が知っておられる方がおられたら、今言われてるような問題点についてはいろいろな良い意見が出て、そこでまた違う方向があったのではないだろうか。

私は90年代より、ズーッと430MHzのFMでやっております、今整然とされて来ているような状態にありつつあるのか、どうか。僕が出てきたあの当時89年～90年代には「これはどうなっているのかな」というような疑問を持ちながらも、少しこちらへんで使ってみようかなど思いました。それで今言われておりました僕ら8J3AMIが使った非常通信周波数は436.72MHzですね。僕らはほとんど支障なく使いました。不法局が出てこられても話せばわかります。西宮は、「今ハンディ機が出てるので電波を止める」と言ったらピシャッと止まりました。

私達は普段その人達と交信をしているのではないのです。ないのですが、バンドの状態というのは私達はわかるので、お互いに解りあったなかで、それが違法局だとかどうとかというようなことを度外視にして、「今はお宅らはそこで電波を止めても構わない筈だ。私達は今連絡をしないといけない」マイクを握る人ですよ。話せば解るのですよ。ところが此処のJA3RLの方がいろいろと出られ話しをするとその人達ともめるのです。JA3YRLにも同じことが言えます。。

ですから私はJA3RLの此処に電話をしたことがあります。「もう電波を出さないでくれ。こちらに任せてくれ。」かえってもめるからこちらに任せて欲しい。いらんことしないでくれ。」此処の事務長に。すると事務長が「お宅、こちらのほ

うにボランティア登録されてますか。」と聞かれました。「僕はしてません。」

私は丁度その時期は会社に行きながら自宅待機の状態だったので、登録出来なかったもので。私は消防団員でございますから二股をかけるということは私自身出来なかったので登録をしてなかったのです。それで「ああそうですか」と言われて、何か変な感じをされたようなことがありましたですね

それはさておいて、そんな事と違って、アマチュア無線の運用をしながら何らかのお手伝いをする。私達の活動の状況を説明させてもらいますけども、アマチュア無線を運用するために西宮へ入ったのではないのです。

ボランティア活動をする事に入って、なおかつその上にアマチュア無線が運用できるのだと。それで私はこの大阪周辺で約900局ぐらいの方々にボランティアの場として集まってもらえることが出来るのではないかなど。アマチュア無線で運用に入ったのではない、ということを此処でも書いてますしそれを主眼としていました。

そうですから、大阪に全国から集まってこられた社会福祉協議会の方達、なかでも一応アマチュア無線局としてもミーティングに参加し、「いろいろな参考意見を述べてくれないか」というようなことで。というのは私達はアマチュア無線局だと言ったら、絶対にはねとばされるのですよ。「お前らは特殊なことって、机に座ってこうしてるだけだ」と、此処でハッキリ言いますがけれども、出発点から私達はJARLは、カードの転送だけで何も世話になっていません。

この前の兵庫県支部主催の反省会でも、西宮基地局はセーブして10局出したのです。ところがその場はお茶飲み会ですわね。そこでは知り合い同志があちこちでワーツとされてますわ。私達は西宮基地局の細々としたアマチュア無線のジャコですわ。「こんなものだな」と、考えていたのと一緒だなと。アマチュア無線のJARLというのはこんなものだと。

JARLは430MHzの運用に積極的な支援を

私達はカードの転送をお願いするだけで、それで充分ですからね。

それと、ある人に言われました。「私達はアマチュア無線、JARLはアマチュア無線の同好会の一番トップでございますので、皆さま方でちゃんとそれをやってもらわないと困るのです。」と。違法局とか、そういうことがあった時に、そういうようなことを言われる方もおられました。電波監理をされてる方々にね。

少しその辺り、どうにかならないのか。先ほど言われたように何百万で揃えたシャックを持つてる方、ハンディ機一人で出られる方、ビギナーの方が出ておられますね。そういうような方が何処から運用されるのか、というような辺りでJARLが取りあえずは愛好会のいちばんトップであったら、その人達を指導する立場で、

430MHzのFMというようなものを、JARLの方々が逃げないでそれに積極的に入り込んでいって、そういう若い方々を指導していくことが絶対に必要なのです。「こんな恐い周波数出ませんわ」と言った人がトップにもいるのです。

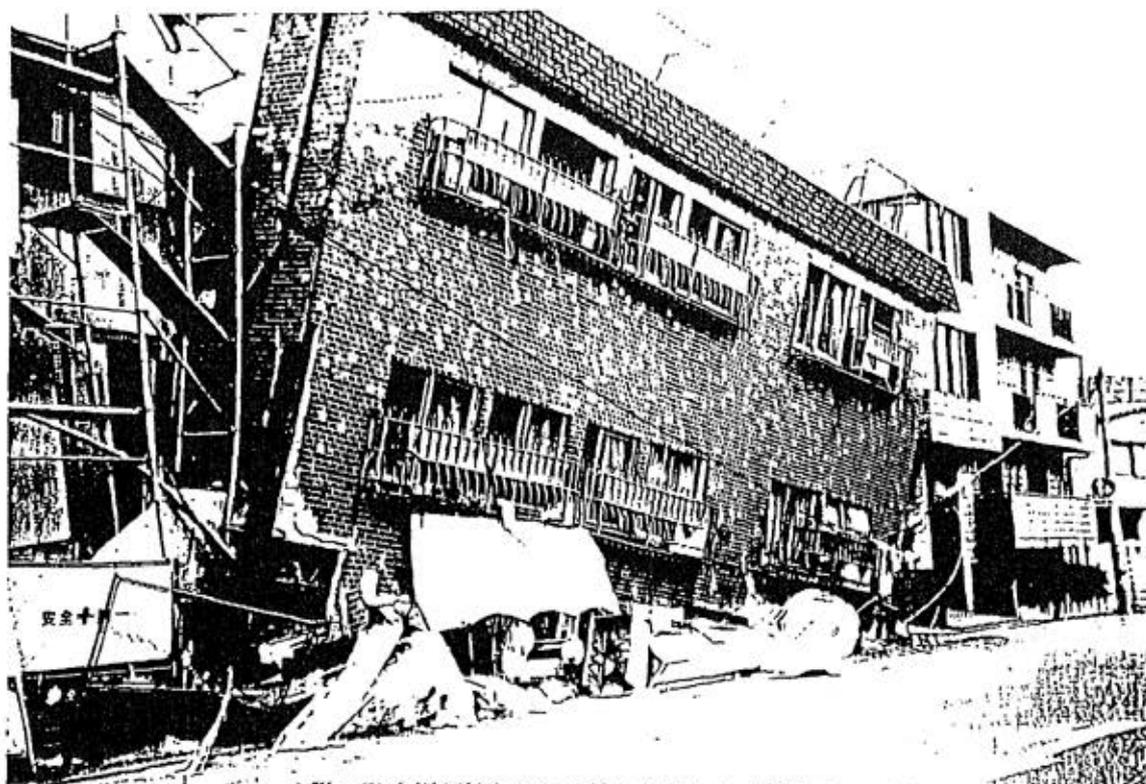
それを非常通信連絡網とか、そういうような事を組織化しても、今宮本さんが言われたように、登録クラブが動かなかったのと同じように、やっぱり動けないと思います。

日頃より楽しく交信が出来て、非常時には路線を切り換えて、そこに一つの目的に皆が集まってこられるような、絶えず同じ伝搬状態、強さでつながるこの430MHzのFMというのは、非常に小範囲でありながら、有効的な電波だと私は思っています。

そういうようなものを如何に活用していくかということ、考えないことには、その基礎を考えなくて、こういう組織だ、こういう組織だというようなことでしたら、この大きな兵庫県でも又地震がきたら、全部全滅になります。今兵庫県はまだまだ持ちこたえて、いま復興に一生懸命に向かっているのです。それだけ地盤があったと思うのです。その辺はこれからJARLの方々が、430MHzのFM運用についてバックアップをしてあげる、又して貰いたいということです。

ナガサワ：

実は私もFMの430MHzの周波数の見直し10年近くやってるのです。最初



1階の駐車場が壊れそれに伴い全壊した4階建てのマンション

はメンバーを集めまして、JARLの返答ももらってるのです。確かにJARLは430MHzのFM、この電波形式が絶対に必要だということで間違いなく認めています。以前私がその代表で2万いくらかの署名を持って行った事もあります。その返答はJARLは430MHzのFMを認めてると、電波形式上ね。有効に利用したいということで。電波形式自体はJARLは認めている事は間違いなし。東京はね。関西はしてないよ。

コナカ：

それで全部解りました。それで結構です。

宮本：

お二人の理事とも東京の方ですから。東京の方は実際には関西の事情というのは、特にVUのFMの事情などはピンとこないのです。つまり混乱の状態というのは実際にはそんなに実感として・・・

ハシオ：

この話しは車の運転と一緒に1エリアの人に話してもわからない。

ナガサワ：

そんなにひどいのですか。非常通信で混信がありましたか。僕は他の周波数でやりましたから。だから僕らはそういう連絡の周波数を使ってませんから、JARLの非常通信網の内容は全然知らないです。

コナカ：

ナガサワさん達のJH3YROといったらある一つの周波数を固定されて運用し、そこにメンバーの人がその周波数で運用すると「使ってますよ」と言われてる...

ナガサワ：

そうです。しかし固定化しては使ってませんよ。そんな失礼なことを言ったら駄目ですよ。

コナカ：

加古川で同じ会社の人で貴方達のメンバーに入っている人で知ってますね。

ナガサワ：

うちはそうではないからね。だから、余所を見てここもそうではないからという具合に判断する貴方が間違いで。そういうクラブは430MHzにも沢山おられますから。

サワイ：

今ね、話が430MHzを主にされてますけど、今度の非常通信の場合、周波数は430MHzだけにおりたのですかね、免許は。

宮本：

いや、免許じゃなしに、つまり、2メートルはなかなか使いにくい、いちばんバ

ンドの中が広い1200はまた、いろいろ伝搬上の問題がある。だから比較的その点ではバンドの中が広がって430MHzがいちばん使いやすいのではないかと思います。

XXX:

なるほどね。内情はあまり知らないのですが、いわゆる430MHzであれば、JARLの局でレピータがかなり関西でも免許が下りてる筈なのです。それが機能しなかったというのが、少しおかしいなど、その辺が私は疑問でした。

例えば1エリア辺りであれば、430のレピータであつてもきっちり動いてますね。関西のレピータで動いているのいくつありますか。今、ないでしょう。恐らく動いていないと思います。

すると、有名無実のレピーター局をそのまま置いているということは、関西地方本部はどんな管理をしているのですか。ということは、例えば電波が止めているという届が来ているのか、それとも廃局の届け出が出ているのか。

宮本:

恐らく何もありません。

XXX:

ということは、止まってから僕がチェックする限り、5年以上経ってますよ。ということは、その間に免許の更新が必ずあった筈なのです。その辺の把握はどうされているのですか。

例えば今回の場合でもシンプレックスで、いわゆる全部やられてますね。ということはJARLにしても、デュプレックスの免許が下りてた筈ですね。

WAがありますね。それが全然機能してなかったわけでしょう。

それだけがJARLではなくて、全部がJARLの局なのでしょう。

宮本:

レピーターの局というのは、いろいろ話が此処で外れますが。

しかし、WAというのはJARL直轄ですから、遠慮なしに使える。それ以外のところは……。

しかし、建て前はそうですけども、実際には機材の提供をし、場所を提供するのは全部やっぱり管理団体ですから、

XXX:

管理団体は最初免許を頂く時に、そういう条件を出してる筈です。うちの場合はそれは考えないことなのですけども、一部の方は考えておられますけどね。

ハシオ:

今回も京都からレピーターの機材を持って行って、神戸に2局接置したわけなのです。ところが、アップリング周波数をもろに使ってる所があるわけです。上下

使ってるわけ。だからもう使えないわけです。アクセスしないのです。

タニ：

レピーターに関しましては私のレポートのなかに書いてます。1月22日と、1月23日にレピーターでつなごうと思って、テストをなさってをられるのですよ。ところが、混信、混信で使いものにならなかったのです。

ナガサワ：

あるだけましですよ。宝塚からはアクセスしませんよ。

XXX：

こういう時だからでなくて、普段からの整備が行き届いてない。

ハシオ：

駄目だね。

サワイ：

レピーターですが、僕は今迄レピーターを使ったことないのです。ところが、テレビでレピーターの周波数はいくら、430MHzのレピーターはいくらか、1200MHzのレピーターいくら、非常災害の周波数いくらというふうに公表されましたね。

NHKからの報道でそれを知って余計にそこを使ってきたのがいたとか。

XXX：

それはアマチュア無線局と違う不法局でしょ。

XXX：

だから、そういう感じで非常通信周波数を知らないものなら知らないで済んでいたのです。ところが、テレビ、新聞で公表され多くの人が屁知したのです。

私はJARLが非常通信をやりだした事はJARLからの話しより先にテレビで報道されそれを知りました。

サワイ：

テロップで出ました。提案事項としまして、書かせて頂いておりますが、先ず、私達が免許を頂戴しました折には心構えとしまして、これは何かの折に皆さん方もお役に立つようにということで、私はアマチュア無線連盟に加入させて頂いたわけです。

ですから、非常事態は常に頭の中にはしまい込んでおりました。ですから、何処の周波数とか、何処とかということとは関係なしに、心やすい方をたくさん作って、横の連絡がスムーズにとれるように、常にお互いが心掛けてやれば、何処の周波数と言わなくても、もうすぐに横の連絡がつくわけです。

近頃のJARLさんのやり方はあまり商売気がありすぎて困ると思いますので。昔私もある種の監察官をやっておりましたもので、細かいことは自分の身に掛かっ

てきますから言いませんが、要は皆さん方の心構えの教育をJARLがどんどんやって欲しいと思うわけです。

ですから、「非常通信がありますよ、非常通信の折にはこういうふうやりなさい」と、「これがアマチュア精神というのです」というその根本的な精神のあり方ですね、そういうものが非常に欠けております。ただ、電話ごっこだけで済ましておるといのが、いま情けない限りです。

それからこの間TVのブースターを全部検査し測ってみましたら、神戸のほうでは430MHzを使いますと、U局の電波に乗るわけですね。今はTVI関係にしましても、フィルターが1,000円ほどで各リグに入るわけです。その際リグに入れてもらっておけば、TVIは減少いたします。それをせずして、ただアマチュア無線家にだけTVIを出さないようにというのは一寸考えてもおかしいです。ですから、電監と郵政省、またはNHK、これがくせ者です。アマチュア無線はこれからの生き方としまして、今までのことはもう忘れましょうと、これを土台にしまして、これからはもう一度組み直して再出発と、非常時の折にはお互いに横のルート、縦のルート、組織というものを完璧なものにこしらえまして、周波数は何処を使ってもいいと、いうぐらいのことでやればいと思います。

それから、岸和田の局を傍受しておりますと、何年も前から各局にわたって、ある周波数で防災訓練をやっておられます。そういう局もございますので、その人の心構えというのですか、アマチュア無線は自分の為だけでなく、人様の為にも役に立つようになっておるのだと、いざという時には役に立つようにやるのだと、ある一方ではその趣味でやり、ある事が起きればすぐそちらへ切り換えられるという具合に、皆さん方のご協力をこれから再度免許を与えられる折とか、また、講習の折には、口酸っぱく指導をしてやって欲しいわけです。でないと、今後本当にお互いが上手く噛み合っていかなくなると思うのです。

コナカさんとこのグループは確かに立派ですよ。横の連絡は上手く出来ます。と言いますのは、自分の資材を投げうって、それで、お友達がたくさんおると、声をかければすぐに寄ってくると、そをいう事をJARLが主体でやっぱりやらないといけないわけですね。それだけ今はJARLに魅力がない。

それで、いまのカードの転送ですが、実際遅いです。3ヶ所もあるのにどうしてあんなに遅いのですか。

宮本：



駅の周辺には多くの安否と

カードの件は僕が担当の委員ですので・・・

サワイ：

最後に私留いております、泉南の局が私と謀議をしまして「物資をトラックに乗せて神戸へ送って頂きたい」と、こういう要請を私がやりました。

すると、泉南の局はそれを気持ちよく「車では神戸には到着しないから船を出してあげましょう」と言って船を2隻都合して援助物資を輸送してくれました。

「そういう細かい気持ちにお礼を申し上げたい」と、いうことで書いていますので、支部長さんのほうからお礼の連絡をしてあげてもらえませんか。

京阪神地区以外の移動無線局は2メーターの運用が多い

タニ：

周波数につきましてね、あの時は430MHz使いましたけれども、430MHzは皆さんお聞きになったような状態で、あと145MHzでも私はやったのですが、地方から救援に来て下さる方が、430MHzよりも145MHzが多かったですね。

日赤の方とかあるいはあっちこっち物資の救援で、145MHzの使用が多かったですね。145MHzで私達も連絡しました。

だから430MHzだけでなく145MHzも有効だと思います。

宮本：

有効に使えましたか

タニ：

145MHzのほうが、非常に協力が良かったです。「空けてくれと言ったら」「はいはいどうぞ」と、皆の協力が良かったです。それと51MHzはがら空きでした。

マジマ：

私はテンメーターといって、全国大会が毎年持ち廻りで、去年は長野県、今年は沼津であるのですが、テンメーターでも大阪はネット近畿、神戸市はネット兵庫があります。

私は車もズーッとテンメーターでやってるのです。

この地震の時は横須賀基地の自衛隊の所と交信しました。

私どもは摂田区で山の上のほうなのです。下はだいぶいろいろと援助がされていましたが、上のほうは水も1週間から10日間ぐらい出ませんでした。だからいろんなバンドがいけるのではないかと思いますけどね。

宮本：

テンメーターは周波数ほどの辺。

マジマ：

29.30MHzがメインです。29.00MHzまで

宮本：

今タニさんがおっしゃった、145MHzが使えたということは、145MHzが非常に使い勝手がいいというのではなく、むしろどのバンドでもメインの近辺はもっと使えるだろうということですね。

それでは次の基地局の報告をお願いしたいのですが。

アマチュア無線家は社会に貢献するのが当たり前

ナガリワ：

私のところは特異的な独自の運動をしたということで、クラブ単位で取りあえず震災後4日後にボランティア団体の人に、8J3コールのハンデー機をあげに行っています。

以後JARLから協力態勢が来ないということで、独自でクラブ単位で動きました。それは避難所の無料新聞の配達とか、又私が講習会の管理者をやっていますので、その生徒さんに安否のハガキ等を出しました。

私の居住地が仁川ですから、避難所のほうに物資の紹介と、それからあと義援金の配布など独自でクラブ単位でやりました。

先ほどからサワイさんが言われた通り、私達アマチュア無線家は社会に貢献するのはこれ常識です。私達はそういう教育を受けました。

今回、JARL非会員からJARL云々とかいう話が出ていますけれども、会員、非会員等は問題外でアマチュア無線家なら考えは一緒だと思います。宝塚には非会員の人でも100人近く来てもらいました。遠い所は2エリア、それから岡山、それも泊まり込みで4日、5日、と皆さん来てくれました。

今回のJARLの非常通信については、宝塚には8J3AMQというコールサインがありましたけれども外の非常通信基地局の情報は全然知りませんね。

宝塚ではそれらの無線通信は聞いてません。

全くわかりません。

私の所から広田小学校とは車で10分ぐらいですけれども、連絡が取れたのがごく最近、撤収する1週間ほど前です。

たったそれが車に乗って10分の距離です。当然私達は被災者ですから、早い時期に正常な無線の運用をする事は無理です。

あの混乱で、横の連絡をとると言うのも無理です。ただ何故それが出来たかと、言えば「日頃からアマチュア無線は社会に貢献すべきだ」と。これはその先ほど言われたように一つの周波数で、おいコラとか言うクラブでもいざとなったらやっぱ

りアマチュア無線家ですから。

当初において「救援活動をしているのは私達だけだ」と確かに自負してました。震災後4日目に動いたのは私達だけだと、他は誰もやってないと、誰も頼りにならないと、いう気になったのですけれども、実は蓋を開けてみたら、いろんな所でいろんな方々が活躍されていた事実に私は今感心してるだけです。

しかしJARL及び関西地方本部は当初からもっと連絡を密にして欲しかったねとおしたらもう少し円滑に活動出来ていたと思います。その後悔がありますけれども。

ハットリ：

私は8J3AMTを広田小学校で使用していました。西宮の基地局8J3AMRのコナカさんの所のグループがアクティブに私共を応援してくれてました。ですから私のほうは表だってはあまり動いてないのです、正直言って。

物資が広田小学校へ入ってきまして、そのぐるりに僅かな人数の避難所、個人的な所の避難所に物資の配送、連絡など、電話連絡がちょっと無理な所が多かったもので、自転車でハンディ機を持たして走らせました。

活動していたほとんどの人が関東方面からのボランティアの人でした。その連絡用に430MHzと、1200MHz、この二つを使ってやりました。

それであれいつ頃でしたか、コナカさんの所が開局したのは。あれと同じ2月12日です。日曜日ですね。大阪支部長にハンディー機を持ってきて頂いて。

それ迄は子供のおもちゃのトランシーバーとそれから1200MHzのハンディーとそれから2メートルのハンディーと、私の持ち物だけでやってましたので大して活躍は出来てません。

反省というのは、私、SHFの1200MHz、2400MHzのレピーターをやってるのですねあの辺でしたらかなりクリアにいきますし、今度思いましたのは、JARLの方が言われるのは「東灘区へ行かないとイカン、東灘区へ行かないとイカン」と言われるのがおかしかったので、私はクレームを付けたのです。すると「部外者は黙っておけ」ということですわ。

中心部がひっくり返ってしまっ



避難所から解消し授業再開の喜びの学校

てる所へ、基地局を持って行っても仕方がないわけでしょ。落ち着くまでは周辺に置いたらどうだと、別に兵庫県へもって行かなくても大阪からでもいけるわけでしょ。かなり強いパワーの各局がおられるから、そういう人々の協力を願って、ある程度沈静化してから真ん中へ基地局をもって行けばいいのではないかと言うと、「部外者は黙れ」と、というようなことだったので、「言う権利はないですね」とそれで私は引っ込んだのですけど。

それで自分達だけの身内のぐるりだけで細々とやっていて、これがどうしても足らなくなったので、大阪の支部長に電話をしまして、ハンディ機を借りまして、それで一応細々とやらして頂いたのです。

シグムラ：

補足しますと、細々とではなくて、時間の関係であまり書えませんが、ナガサワ氏もそれからこちらのハツトリさんもたいへん良くやって頂きました。最初に僕と言い合いました所為もありまして、僕自身は他の医療団体から、要請がありまして、医師のボランティアの仲間として、最初は自分だけ動こうとしたのです。

1月17日には連絡があり車で入れないからというので、この大阪のある所にオートバイがいっぱい置いてある、そこでオートバイを買い求めて、ところが免許証がおりないと、ナンバープレートが下りないということなので、その店の人にいろいろとやって頂いて、夜も更けてそしてその時に無線機を付けましたので、18日には出発出来なかった。

19日に現地に入って、その時はアマチュア無線というのはあまり関係なく、ただ医師のグループの中にはアマチュア無線のコールサイン持ってる者が居りました。さっきからコサカさん、タニさん皆さんおっしゃるようないろいろな問題を抱えて動きながら解決し活動していた時に、何が一番障害になったかと言いますと、古いアマチュア局で立派なアマチュア局ほど、うかつに動くと言いますと、それからキャリアなど、いろんな事に傷が付く、そんな事などいろんな思惑があったので動けなかった。それが積極的に活動しようとしている人達との間で種々のトラブルが出たと思う。

つまり、非常に際しては、僕らは何をしたかと言いますと「免許証はいつでも捨てていいよ」と「免許証なんかいいじゃないか」その覚悟から入りましたので、今回は違法な通信もやりました。どういふことかと言いますと、免許証を持たない看護婦さんであるとか、医療関係者に無線機を渡します。それでドンドンやります。するとあらゆる法にひっかかってきますね。

だから、1月18、19、20日ぐらい迄はJARLが交渉して郵政大臣から下りた超法規というものは知らなかったのです。JARLも1月22日の会議を経て、そしてハンディ機を配り始めた、それから1週間後の1月29日までは動けな

った。それまでに個人的に動いた人間は何かというと「免許はいつ捨ててもいい、おおげさかも知れませんが命もいいじゃないか」そういう覚悟でないと当初の被災地には入れないのです。

何故かと言いますと、ご存知のように僕は大阪に住んでおりますけれども、あの状態で外部の人を神戸に呼ぶというのは勇気がいるのですね。

大阪支部の関者係に勿論相談をかけましたけど、責任者は「じゃあ、貴方行きなさい」と簡単に言うことが出来なかった。何故かと言うと、責任問題、保険も何も無いわけです。だから「命は惜しくない、貴方は勝手に自分の保険で命を失くしたって、腕を怪我してもいいから行きなさい」とは言えない。これは人間として当たり前です。だからそこは責められない。



2年間の2LDKの仮設住宅

シゲムラ：

であれば、これは個人的に動けばいいじゃないかと、皆さんもそういうふうにして動かれたと僕は思うのです。

非常時に積極的な柔軟な行動こそ必要

過去のJARLの本を読みましたら先登諸氏には社会的に非常な活躍があります。だからその当時の方々に言わせると「今はチャンチャラおかしい」と、しかし現在の責任ある立場に置かれた人は古い考えの価値観と新しい考えの価値観の両方に縛られてるわけです。法だとかに。それを感じました。

だから独自に我々は、超法規というものがハッキリ判るまで、結局は無茶な動きをしました。そこでは公の立場である人でも「法を侵しました」というわけには行かない様な事をやっていたわけです。公の人はその後それを明言出来ない悩みがあると思います。実際には。

だから、例えばシツイさんの一期一会、この方々もよく聞こえました。いろんな方々の活動のなかには有名なタニさん、いろんなどころで会ってみれば僕の100倍もやっているなど、これではものも言えない。だからこれからは諦めないでおうと。

だけど、また違った意見、先ほどの話しもありましたし、タニさんの話しにもあると思うのだけでも、僕は実際ダンプなどを使って依頼します。ハンディ機が出る前ですよ。つまり僕自身がハンディ機だとかモバイル機、それを配布するのに、ダンプだとか経団連の使ってたダイエーも使っていましたね。僕の友達で東京に居た奴もいるのです。そこからいろんなものを使って送り込んだこともあるのです。「ちょっとこれ届けてくれないか」と言うと「はい、はい」と言ってちゃんと届きましたね。一度も事故がなく。

つまり、すったもんだという例のダンプということもありますけど、その人達でも場合によれば味方になるよと。それはおっしゃるように、平生やっておられるわけでしょ。お付き合いを。だからこの3波に限る必要はないのではないかとすることは、僕は非常によく解ります。

だから、JARLの対応について親しくお話しする方にはチラッと漏らしたけれども「これではもう駄目だな」と感じた途端にもう作戦を変えました。

動けない人を動かそうとしても、象の足を捕まえてどっち行くのかということですから。

だから個人的には皆さん全員が動いたのではないですか、実際には。僕もそういう調子で、そして19日ですか、ナガスエ君に依頼して、西宮北口の共同教会にアンテナとリグの設置をしました。

いろいろと本当によくやっってる方々の後ろ姿を拝んだような状態ですよ。

何故かと言いますと、もう僕なんかは邪魔なのですよ。今回活躍された若い人、リタイヤ組、そして女性、すばりしかったですよ。しかし会社でデスクを守ってる人は無理ですね。それから公務員がいますからね、公務員にたてついたらもうだめです。

だからその場その場、それから今何をすべきか、明日は何をするべきか、これから1時間後何をすべきか、それを一つずつ解決するしか手がなかった。パズルのようなもの。

だからコソカさんの活躍も知っていました。いろんな所で、その場でやってる方、それがただ、別にJARLとか、JARL以外であるとか、一切関係なく名前を挙げるというと山ほどあります。ただ、JARLは無能である、全員がそう決めつけても次の打つ手を考える。そういう方々が今日は此処に居られると僕は思うのです

ハンディー機は集める気があれば幾らでも集まる

ただ、不満というのは自分自身にあって、僕は大阪に居ながら一番後悔している中には、JARLからハンディー機が届く前に、例えば大阪府内の個人のリグを集めれば何千台じゃないでしょ。その無線機を集める運動を何故しなかったかということが、僕は後悔として残った。僕自身でもは10年間に1時間か2時間しか使っていないようなハンディー機、それとかモバイル機がただのがらくたとして放り込んであったのです。とにかく失敗も多かったですけど。

要するにOMさんには非常通信にあたってから事後報告の事がある。正確に記載する事で自分の輝かしいステージに傷をつけたくない。そういうふうなこともあったのじゃないでしょうか。

自衛隊阪神病院の被災患者後送支援
ヘリコプター搬送

月 日	発着場所	人数
1月19日	金沢病院→大阪市立総合医療センター	8人
	県立西宮病院→近畿大学医学部附属病院	1人
1月20日	六甲病院→山崎分民病院	1人
	甲南病院→県立柏原病院	2人
	甲南病院→西脇市民病院	5人
	甲南病院→小野市民病院	4人
	甲南病院→姫路新日鉄広畑製鉄病院	15人
1月21日	甲南病院→石川島播磨病院	15人
	東神戸病院→国立明石病院	10人
	須磨病院→吹田市民病院	1人
	中央市民病院→大阪市立大学病院	1人
1月27日	西郷救護所→大阪船員保険病院	2人
2月11日	鎌紡記念病院→済生会川内病院	1人
2月13日	神戸市民病院→汐見ヶ丘病院	1人



ヘリで負傷者を輸送する自衛隊員

だから今回は非常時には、自分のことはどうでもいいという者だけが出てこられた。若い人を始めリタイヤ組に近いような方。又は長年の信念がある人、こういうふうに思いましたね。

それから、さっきの補足に戻りますけども、ハットリさんでも、言う事は山ほどあるのではないですか。自分では辛いにくい、だから補足しますけど、よくやりました。ただね、あの3波だけを使ってやれという制限があったので、あの制限内では限界があったなど、だから制限を外してしまえば、例えばさっきの2メーターの話ではありませんけども、いくらでも出来たのです。

だからそれは考え方で、あるいは個人の性格だとか、人生観だとか、いろんな事が作用して、そして動いた方というのは本当に僕は尊敬してます。それは此処に居られる方だけではなく、来られなくて本当に頑張った方は、まだ居るはずなのです。だからその方々には本当に敬意を表してます。

今回はアマチュア無線だけに限らずという観点で、皆さんお集まりだから、そういう意味で例えば、ハットリさんだとか、ナガサワさんにお礼を言いたい。

最初に何とかならないかというようなところから始まったわけですよ。だからそれを、周波数はない、何もありませんから、アンテナがない、何もありませんよ。結局は何も出来なくてそのまま帰ったような人も居られる。それもいま聞きましただけども、それも皆さんにも当てはまるのではないですかね。そんな事です。

宮本：

各局からの報告および問題点等の指摘、いま8J3AMQ、8J3AMTと聞きましたけども、あと・・・

各基地局には必ずリゾーが必要

コサカ：

いまの事で補足したいのですが、災害復旧活動のボランティア活動は直接活動と間接活動があります。間接活動は後方支援として活動場所は何処であろうと問いません。しかし直接活動は被災者と同じ視点で「今、何を必要としているか」「なにを悩んでいるか」は現場でしか把握出来ません。この活動に際しアマチュア無線家は特殊な有資格者です。その技術を必要時にボランティア活動を円滑にする為に使用するから、単なるオペレーターとは違うのです。

何故難しい東灘区で基地局を造りスタートしたかと。これは実は私が基地局設置のお願いをしたのです。それは、先ほど言いましたように、長田区のAMD Aの関係なのです。AMD Aの活動は初期の緊急医療活動が主体です。地元の医療体制が順次出来てくると、地元を引き継ぐ義務が生じ速やかに撤退しないといけないのです。つまり地元の医療施設が順次従来のプライマリヘルスケアを確立する必要があるありま

す。

そういう意味で同じボランティアでありながら、大阪のボランティアの医師グループだとか、大学関係、各都道府県の医師グループ、厚生省主導の医療チーム等がいろいろな所へ入ってきてほぼ緊急医療の必要が少なくなり、それでAMDAのほうはいち早く撤退しようとしたのです。

撤退するについてAMDAと一諸に活動していたドクターが「まだ時間はあるから何処でもいいから使ってくれないか」と言われていました。その人達が東灘区へ入って来たのです。AMDA関係から連絡があつて、「こういうドクターが東灘区のほうへ行くけれども、何とか無線を使わせてもらえないか」ということで、私のほうから東灘区の保健所のほうへ基地局開設のお願いをしたのです。

本部長に連絡し了解の基でJA3QVQが即動いてくれたのです。それでアンテナを上げ、運用を開始しました。しかし運用の条件はJA3YRLがバックアップするという事だったのですよ。ところが残念ながらあまりバックアップしてくれないから、関西地方本部に登録した人が要請により、その日によって人数に関係無くばらばらに行つたのでしょね。特に決まったヘッドが居ないので来た人は「どんな動きをすればいいのか」ほとんど判らず、そのために現場で混乱が起きてしまったのです。同じ所のボランティアセンターの責任者より「アマチュア無線家はただ机の前で座っているだけで、我々の活動になかなか手を貸そうとしない。これでは必要がない」と、クレームが続出し何回か修復しましたが残念ながら結局は責任者不在が最後まで続きました。これは開局をお願いした私にも後のフォローをしなかつた責任があります。この基地局の正確な問題点の指摘はCQ誌7月号の：ボランティア活動とアマチュア無線：にJF1QKJの秋山 実千さんが細かく指摘しています。

そういうことがあつて、その周辺をうめるよりも中心部の東灘区へ先に入ってしまったのです。

僕はこの関西地方本部のメンバーに「今回の災害復旧では8J3AAAからのコールサインを時には無免許の人に使用させる場合があるが目をつぶっていてくれ」とお願いしました



体育館内での仮設診療所

それは局長が思うように集まらないから、「基地局のオペレーターにも無資格者で上手な人がいるのだから、何とかやらしてくれないか」と言った時に猛烈に非難を此処でされました。

それで、むきになり、「じゃあ一例で登山した時に遭難通信を時々行い新聞に報道されますますが、その時に局免を持った人が遭難し、もう一人は局免が無いが無線機を使って応援を求めたとしたらどうしますか」電波法では違法になるかも知れないけれど、人道的には充分評価されます。それがこういう特殊な状態の時にこそ超法規的な考えがそこにあるべきだと話しても「それは違反だから違法は絶対にやってはいけない」と強く言われました。この人達と議論してもだめだ、実行あるのみと以後は完全に無視しました。



ヘリで大阪に輸送する大阪市消防署員

この地方本部に集まったAのコールの二文字コールの人です。そういうやりとりも実際にあったということです。今後このような為にも有効な非常通信の教育が資格のランクに関係無く全員に必要なと感じました。

だから、非常の時には何を優先すればいいかと、先程来言われたように、そういう考えの枠を固持する、ガンジガラメめの人

がいますね。これをいう時こそ臨機応変で枠を外したなかで、如何に災害の人を救うかと、ということを中心に考え動かなければいけないと思います。

ナガサワ：

宝塚の僕の所にJARLから8J3からのハンディー機8台ほど届けて頂きました。そのコールサインのハンディー機は全部避難所等に渡しましたので免許を持ってない人、皆さん使用し喋ってます。現場はね。

だから関西地方本部のなかではそういう話があったかも知れないけれども、現場は皆さん当然やっていますよ。

サワイ：

緊急時に対してはそういう対処で何処でもやっておるわけです。

ナガサワ：

こんな事はだいたい当たり前のことですね。

シゲムラ：

さっきの真ん中の東灘区に入ったのが災害後2週間ぐらいしてからでしょ。

コサカ：

そうです 2月5日開局です。

電話と比較して無線の便利な点が相手に説明されていない

ハシオ：

あれはね、あそこへ2月の初めにコサカさんが連絡とった時に、「アマチュア無線は要らない」と。それは「以前にもアマチュア無線の人から話しがあったが連絡用のややこしい無線機は要らないとお断りした」そして今は「携帯用電話機を沢山載いた」それで「連絡は充分電話でとれます」ということだったので断られた。

宮本：

最初に兵庫県支部が東灘区にハンディー機を持っていったが、いらないとされた。

ハシオ：

そうでしょ。というのは電話機が入ってるから電話連絡が利くと言っただけけれども、実際は本部は何時も話し中で、なかなか連絡がとれないわけです。携帯電話機が外で活動する人の為に約30台が持ち出され、受ける側の災害本部には電話は2-3本しかないから何時も本部は話し中。しかし本部に居る人は何時も受け身で外部からの連絡待ちの受けは出来ませんが、外部からは何時も本部が話し中で待機する事になります。これでは実際に必要な連絡網の確保にはなりません。

XXX：

アマチュア無線家というのはハンディー機かモバイル機は必ず持つてるわけでそれを使えばいいわけです。現実には。

有坂：

電話機で連絡がとれるということと、アマチュア無線の連絡とは別です。私は東灘区、それから長田区も行きましたけれど、何が一番助かったかという、一斉指令です。これは電話機では出来ません。だから電話機があるから無線が要らないというのはちょっと何か・・・

コサカ：

いや、それはね、無線機を設置する時の説明不足。アマチュア無線家は無線の便利さを当たり前で使用しているため、その便利さを相手に充分説明が出来ない訳ですよ。ただ「通信の確保に無線機どうですか」と聞くだけです。無線を運用した事の無い人は、アマチュア無線は「難しい通信方法」「機械の操作が難しい」「専門家が扱うもの」等で拒否反応をするのが当たり前だと思います。

アマチュア無線の運用の利点は有坂理事も言われましたがは多くの局に一斉司令と傍受が出来る事です。その上更に重要なポイントはアマチュア無線だからこそ混信の

中でも通信が可能な運用方法を身につけている事です。この運用術は業務無線やプロにはありません。この意味では業務無線以上の同波数をもっている利点よりも、運用術ではプロ以上だと誇るべきです。だから我々の通信方法はプロです。

宮本：

それは自分では当たり前的事と思ってるから。

XXX：

そう、そう、そう。

非常時には臨機応変の運用が当然な事

有坂：

それからね、先ほどから伺ってて、免許云々。何の為に免許を持ってるかと、「此処で人が死にそうですよ」なんてのをやるのだったら止めて助けるべきなのですよ。連絡する以前に。だとするならば、これは人命が一番大切である。捨てると言われたけれども、捨てる必要はないと免許は。「貴方はやっていてくれ、俺は誰か呼んでくるから」と。

ただ困るのは、アマチュア無線連盟の常任理事が来て、「やっていい」と言ったなどと話だけがエスカレートするのが一番怖いというだけで、それには状況が加味される事が条件です。もし現場に私が居たとしたら、確実にそれは免許を持っているのが持っていまいが、命に関わる事が起きるのなら、「お前頼むぞ、俺、救急車呼んでくるから」と、どっちかになったと思います。出来る人に頼んだと思います。情報機器というなかに人道論というものはあまり建て前論ではないかと思うのです。

誤解のないようにして頂きたいのは、表だって終わってから、「こういう時に無免許でやっていいですか」と、アマチュア無線連盟の理事が「よろしいと言った」という結論になるのではない。それはやはり、おっしゃった通りだと思います。

その現場に即して、その場において何が一番重要であるのか、本質的なものから処理していくもので、これは理事である私もそう思っております。その点は誤解のないように。

シゲムラ：

氣質の違いをねコサカさんもおっしゃる。それから有坂理事も同じ様におっしゃる。これとちょっと関西エリアのOMの感情の違いもあるのですよ。OMといってもいまの理事全員が有坂さんの様にハッキリ答えるかという、そうではないと思います。全員の理事はそうは答えないかも知れない。

つまり、「これは公式発表じゃないけれど」とはっきり言明されるというのは、僕はいま初めて聞きましたよ。

専務理事は勿論慎重な立場でおられるから。他にも多くのOMがおられますが、ち

らっと本音の部分聞いてみても、言える部分と言えない部分がウーンというようになるのです。それをよく此処で敢えてよく言われたなど、僕は一つ感心しました。…

有坂：

もし、報告義務があるなら、無免許の人間に使わせましたと言えば、こうですよ。「何時から何時何分と、悪いなら殺せ」と書いておいたらどうでしょう。…

それは法律が何故あるのかというもつと原点に入れば、人間社会の秩序維持の最低限度を保つ為にあるものと思うのです。

だから、反省会の名で「こういう事は良いのですか」「悪いのですか」という質問に対する答と、おのずとこれはもう当然違ってくるものですから。というふうに私は考えます。

サワイ：

それと一つ提案がございますが。アマチュア無線家、無線連盟としまして、対外的なPRというものが、私は不足しておるように思うわけです。一般紙に細かい活字でも結構ですから、ボランティア活動をやられた方に対してのJARLのお礼として、自薦でも他薦でもよろしいから、その人達の名前を全部載せてやって欲しいわけです。

そうしますと、また励みがでまして、次の非常の折には大勢の協力が頂けると、こう思いますので、何らかの手を打って頂きたい。

有坂：

ボランティア活動の顕彰は、組織の人間の一人として考える場合と、自分自身でやった場合とちょっと違うのです。

何か欲しくてやってるのではないということ、無理に引きずり出すことが良いのかどうかということもありますけれども、今後アマチュア無線の社会的地位を高める為に組織としてやるべきこと、これは考えておりますので、後ほど連盟の考え等を含めて最後の問題と致しましょう。

非常通信を目的としたJA3YRL開設と開局の動き

タニ：

灘区で開局した8J3AMJのお話をさせていただきます。

私の場合、まだJARLの動く前から、地震の直後からレポートに書いていますけれども。あのような状況で神戸の局はほとんど出てなかったです。

そんな状態でしたのですが、19日頃、後にJA3YRLの設置した富安氏と固定局同志でつながって、二人でいるんなことをやったのですけれども。彼はJARLのほうとコンタクトをズーッとしていたらしいのです。私はJARLのほうとはコンタクトせず自分だけでやっていました。21日頃にJARLで非常通信をやるということをテレビで知りました。彼からの情報では「JARLのほうは組織を作って、非常

通信をやろうとしてる」と、「東灘区か灘区に基地をもって来たいけれども、レピータの設置と基地局の場所の提供を要求されてる」と彼から相談があり「私の家でやってくれないか」という話があったのです。ところが私は当時年末まで入院してまして、病あがりでしたし、家もつぶれていましたし、「私の家は困る」と言う話して結局は富安さんが引き受けてくれたのです。

そんな状況でJA3YRLが設置されましたが、オペレータが誰もいなかったので、私が近所のスギモトさんをお願いして応援に行っていたのです。

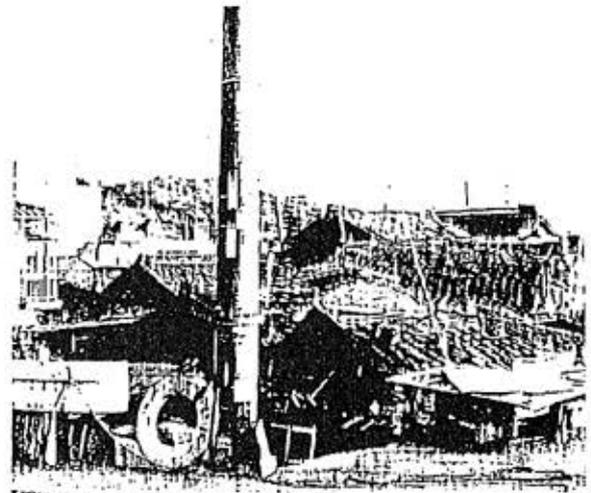
又JA3YRLに集まった救援物資を「灘区のほうも分けてやるから、運んでくれないか」と言われたのです。私一人ではどうにもなりませんし、「病あがりでそんな荷物は持てない」と断っていました。

JARLのほう動き出しましたので、私は病みあがりだったので自宅で中継局に徹してました。JA3YRLが通信出来ない所を私が全部カバーして中継しておりました。

実際に灘区に特設局が出来たのはコサカさんが2月4日頃迄にいろいろ動いて頂きまして、2月5日にやっと灘に8J3AMJの特設局が出来たのです。ところが、アンテナとリグはつけて頂いたけども、オペレータはスズキさんという方が一人だけで、誰も応援に来ないのです。当時みんな東灘区のほうにJARLのほうから、応援にいつてましたけども、灘区には全く人が来ないものですから、動きがとれなかったわけですね。

近所の方に電話を掛け4局程集まり「どんな活動をしようか」話し合いましたが、何からしたらいいのか判らず、こんな事態が起きるとは予想してなかったですから、誰に連絡していいか判らないわけです。有線しても電話は半分くらいしかつながりませんし、呼び出すこと自体が困難でした。

東灘区の基地局は物資の搬送を盛んにやりましたね。人が5人から10人ぐらい集まって、物資の配布をやったのです。JARLのほうに灘の基地局の人員派遣をお願いして結果的にポロポロ来始めたのが7日頃。それからJARLを通さずに直に来てくれた方も沢山いらっしゃいます。そういう形でやっと動き始めたのです。さて、東灘区の基地局の方は物資の配給、配送を主に無線を利用していましたが、うちはそんな配送能力はないし、灘区役所のほうももう一つ協力性が悪いですし、どうしよう



2階建カワラ屋根の日本家屋の大半が全壊

かと暫く迷いました。結果1週間ほどしまして情報を提供するのが一番いいのではないかと、各災害救援センターやボランティアセンター等の救援活動状況や行政の災害復旧情報等を一つにまとめて、それを各避難所等の関係部署に情報を提供する事に徹して最後までやったのです。

無線家の協力者の内JARL会員は約50%

それで、無線関係でボランティアに来てくれた方は、レポートにも書いてますが、全部で146名ございました。このうちJARLの会員が63名、JARL以外の方が64名、全く無線に関係のない方が19名集まりました。やはりJARLの会員に限らず皆協力して下さったということを実感しました。

だから今後震災が起きた時にJARL会員のほうが組織を通じて、又名簿等で連絡がとりやすいかもわかりませんがね、JARLの会員以外でもどんどんお誘いを掛けたほうが人が集まると思います。

最近でも洪水の避難勧告が出たのですが、日頃から、緊急事態が起きた時、役所は何処、仲間は何処の誰と誰にお願いするということを、リストアップしておかないと連絡に迷うと思います。

従ってJARLのほうも出来れば、JARLの登録クラブもありますけども、災害対策に応じてくれるクラブとか、あるいは個人とか、そういうのを常にリストアップしておかないといけないと思います。地区別に応援して下さる局えJARLのほうから連絡するような、リストアップをしておかないといけないと思います。その辺のところもまた、お考え頂きたいと思います。

あと詳細は、私の書類にJARLのほうに要求する事とか全部書いてありますので、これを見て頂きたいと思います。電監の事も書いてありますので、これを見て頂けたらと思います。

宮本：

はい、わかりました。

コサカ：

早くからJASARLは活動したからいろいろな事があったのではないですか。教えていただけますか。

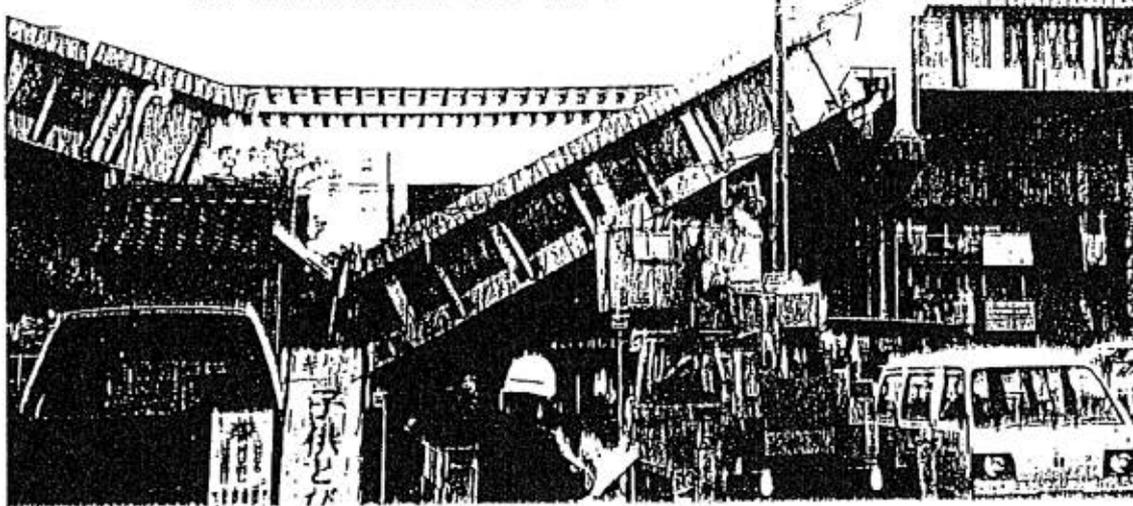
スギモト：

僕は一番初めのほうは、家には電池がすごい量があったので、各局や近所の人達に配っていたのですが、通信出来る状態ではなかったのです。そこで一人で取りあえずチャリンコに乗り物資を運んだりしていました。

一つ思ったのが、もしこういうことが起きた場合に、電源確保が必ず必要になるわけですね。市役所とかそういう所に行って、発電機とか常時置いてありますので、

「使用させて下さい」と頼んでも全然許可を貰えないのです。僕は工業高校なので研究がてらで電池の内部抵抗というのを調べてたので、当時は幸いにも家に電池の量が合ったのです。それを使って皆と通信とかやっていたのですが、平時の交信では、ある程度距離が離れている人とよくコンタクト出来るのですが、間近にいるアマチュア無線の人というのは滅多につながる確率というのはほとんどないのですよ。

阪神電鉄の線路の橋桁が道路に落ちた



そこで被災後近所の家の屋根にアンテナがあれば押し掛けてボランティアの依頼を頼んでズーッとやってたのですが、協力してくれる人も少なく、周りの人達に「使っていないハンディ機があれば貸して下さい」と声を掛けて10何台集まったのですが、使用後に回収が出来きたのが8台すよ。あと2台が全く判らない状況になってしまって、そのなかに、僕のと友達のと2台あったので、仕方がないので僕は自腹をきって友達に弁償したのです。

JARLでは保証認定のステッカーが出てきますよね、あれが貼ってあったら取りあえずその人達とは連絡がつくと思って、そういうのばかり借りていたのですが、実質的にトラックに乗ってた人とかに聞くと、家族単位とかであれば一人の人だけではなくて、他の家族とかが同じ機種を使っているだけでも何枚も貰えますよね。そういうのをある違うルートで売ったりしてる人が居るらしいので、そういうのが違うルートで流れている事を聞くと、僕もこの制度に全然信用出来なくなってしまって。今回の震災でそういうことを知ったのですが、そういうのがあるから、JARLは厳しくチェックしたほうがいいのではないかなと思います。

タニ：

JA3YRLでオペレートした時にいろんな電波妨害とかいろいろあったでしょ。

その辺のお話をちょっと…

いつの場合でも大人の人達の協調性が少し不足

スギモト：

JA3YRLでオペレートした時にトラッカーとか、そういう人達の話しがいっぱいあるんですけど、僕ら常に学校のアマチュア無線の部活動で、体育大会とか学校内の行事で得点報告とかを無線でやって自分らのオペレーションを高めようというので、学校内では協力しあっていたのですよ。そういう時にアマチュア無線の周波数を使用すると、周波数チェックとか、ブレイクインとか、そういう対処の仕方がとても勉強になっていたのですが、周波数を独占している人達とか、私達が朝からズーッと使っている途中から急に出てきて「此処は使ってるのだ」と言って出てくる人がいたり。無線を運用する上でも、周波数とかをクラブの独占するのはいけませんよね。そういうのは書いてあるんですけど、どうも大人の人達は協調性が少ないのです。もうちょっとそういうところを日頃から協調してもらったほうが、こういう時に便利ではないかなと思います。

コサカ：

質問ですけど、JA3YRLの富安さんの家に大勢の人が居ましたよね、寝泊まりしている人達がね。あの人達をよその所へ配置するという事は出来なかったのですか。

スギモト：

あの時集まっていたのは、働いている方もいましたけども、学生が多かったのですよ。学生ばかりなので、取りあえず振り分けても、学校が始まった時点でどうなるかというのがあったのですよ。そこで取りあえず近所で一番近くで行ける所を回ってくれという話しにして、僕は家が東灘区なのですが、灘区とかいろんな所へ行ってたのですけど、あと、尼崎のコナカさんのFTZのメンバーの同じ学生達も手伝いに来てくれて、一緒にやったのですけど、他の地域から来ている人に「灘区の何処何処へ行ってくれ」と言っても、場所が判らないのですよ。一度行った場所であれば何度も行けるのであって、振り分けていくのですけど。又連れて行ってもその場所では皆年上の人ばかりでなかなかその人達とは打ち解けない。逆にそういう面でその場所では活動する仕事がないというのがあるからそれであればJA3YRLに居て、ある程度オペレーションに馴れさせて、完全にまとまってからグループを作って一度に出かけようかと言っていたのですけど、



変貌した火災後の町並み

そう言ってる間に全然違う話しになってしまっただけです。

コサカ：

そういうことがあったわけですね。

タニ：

当初から東灘区と灘区の間は電車不通になっていましたからね。

マジマ：

それと、長田区は火事で車も何も通れなかったのです。それで私のほうはテン・メーターを一応やってみましたので、それと私の所は山の上なので、見晴らしがすごくいいのですよ。ロケーションはもう抜群。大阪湾がぐるっと見えてるのです。それで1エリア、6エリアから7、0、ここらの方が長田区に親とか身内が居る方が大勢おられまして、その方が心配され、安否の確認に私のスクーターで走り回って、皆に連絡した事がありました。

タニ：

地震後少し落ち着きますと、安否情報の問い合わせと、続いて飲料水、物資の問い合わせが多かったですね。

マジマ：

私がそれを何人かズーッとさせてもらって、礼状とか貰ってる方もおります。

~~ボウレンアイの派遣等は地方本部事務局の対応が下手~~

宮本：

他の基地局で安否情報などをした事はございますか。

ニシカワ：

取りあえず1月にJARLが無線機を配布するというので、サワイさんとこがやっておられます『一期一会』のほうでそういう話しがあり、それなら電池を送ろうと。うちの娘が『ローパワーファンクラブ』とかに入っておりますので、そこでやろうかという話しがあつて、僕も商業の関係上、1月いっぱい神戸に行つたので、2月になったら行こうかということで、2月の8日ぐらいにJARLに電話で「取りあえず登録して下さいよ」ということなのです。それも「1日や2日、駄目です」とか、いうことなのです。だから極端に言ったら、「今日行ける、言ったら、駄目です」と。ですから「だいお前から登録してもらないと受付出来ません」と、いうことなのです。

で2月15日から灘区に行かせてもらったのですね。そしたら人間が来な
多くの登録されてる方がいるのに、実際問題そういうものなので入り口の
で切られてしまつてると。それならもう灘区にはっきり居ようと、そういう感
とつと灘区で20日ぐらい居たかな、3月20日まで居りましたけども。結局

最初のところでケッチン食らってしまったら「行こうかなと思っても、もう止めておこうかな」と、そんなややこしいことを言われるのだったらね。それは行きたかっても「要りませんわ」と言われたら、行こうかなと思っても行かれないでしょ。そういう方たくさんおります。

その430MHzのFMの愛好会のクラブをやっても、「日数がないから行けない。登録も出来ないわ」と、言う方がたくさんおります。うちは奥北郡ですが神戸の通信は全部入ります。だからもう皆ホームから、極端言えば僕が灘区へ行っててコーシャル入っても、ハンディ機でホームと連絡出来ます。逆に言うと、さっきも言われたように、神戸に7局の基地局を置かなくても、極端には対岸の大阪に置いて、神戸は全部クリア出来ます。ハンディ機とこっちの固定局であればみな入ります。

それと向こうへ実際に行ってみて、ボランティア団体とか、灘区の場合は通信と情報連絡という感じでやっていたから。避難所ではなくてボランティア団体のなかでも、これは便利で良いものだという方もいるし、使い方がわからないとかいう方もおります。

奇のハイブリッドよりシンプルな使用し易いリグが必要

僕らでも自分が使ってるリグはわかるのですが、人のリグは難しいですね、新しい今のリグなど。だからそれを間違えて使うとあとから難儀するとかね。だからあまりいい製品も良し悪しだなという気もします。特に初めての方はわからないですね。それがいま自動的に電源が勝手にカットされるとか、電池の目安とかいうのが自動的にロー発信なったりハイ発信になったりしますわね。そういうリグの扱いを説明するのに、特に資格のない者に貸してあげたとかいう時に難儀します。さっきまで入ってたのに急に入らなくなったとか。

灘区の場合でボランティアで協力された方々は、JARLの会員の方よりもJARLの会員以外の方のほうが多いのです。他の所はわかりませんがね。ですからJARLの会員に入っても何の恩恵もないので、要するに自分のフレンドだけで喋ってたら、JARLの会員の必要性は全くありません。カードを転送するためのJARLだという認識です。

始めは無線でAMDAとかよく使われていましたね、AMDAの無線はよく入っておりました。

私の感じでは非常通信周波数として公表されたら、それまでは静かだった周波数が一辺ににぎやかになった、そういう気がしますのでもう少し無法局の排除ということを、連盟並びに電波監理局のほうで検討してもらいたいと思うます。あれでも「電波監理局です、何々です」と言ったら、暫効くと思うのです。だから一般のアマチュア無線家に、JARLの方から話すと、「JARLの非会員ですから私には関係ない」と

言われますね。「電波監理局です」という一言が入ったら、皆素直に退散すると思います。

ハシオ：

それは非常通信の前半は効いてました。半月か1ヶ月ぐらいは、1ヶ月過ぎると「なんで此処ばかり届るのか」と言っていました。「わしら此処に昔から居るのだ」ともっと他の周波数へ行ったらどうや」と言うわけです。

だから特定の周波数にいくとそれを言うわけ。

ニシカワ：

そういう感じでね、周波数でも有効にあっちこっち移動出来て使わせてもらったら良かった。タニさんは毎日の活動報告を定時に一定周波数で使用させて頂いたですね。大阪とか神戸のね。そういう感じで使わしてくれる周波数もありますので、やはりあっちこっち有効に使わせてもらったほうが良かったかなと、3波に固執し過ぎて、逆にそこを使ってるクラブが1ヶ月なら我慢しようと思ってるところが、2ヶ月、3ヶ月もなると「いつまでやるのか」とよく言っていましたね。そういうこともよく考えて頂きたいと思います。

ハシオ：

内容が非常通信と違ってのわけですね、後半になってきたらね。

モラルの向上から無線運用方法をお互いに身に付ける

宮本：

わかりました。タカヤスさん河内長野のほうからもいろいろご苦労あったと思うのですが、その辺のお話しちょっと・・・

タカヤス：

私自身は、神戸にはまだ一度も足を入れてないのですが、交信は聞いてまして、皆さんが異口同音に言われましたように、混信がひどかったですね。マナーの問題でしたね。

さらには、現に非常通信をしていると思われる方であっても、答える通信の内容がお互いに理解できてないのに、「了解、了解」とやってるわけですね。同時通信していたのもありました。

そういう意味でもう少し原点に戻りまして「アマチュア無線とは何か」「非常時における対応はどうあるべきか」正しい使い方、その辺りももう少しやるべきだと私は思いました。と同時に、日常茶飯事的にトラックだとか、ダンプだとか、不法、違法の方が非常に多いということ、それを野放しにしてる現状がある。その上でこういう事態が起こるといことです。この辺りも今後の話しとして、是非解決策を見いだして頂きたいと思います。

この間、6月11日にJARL大阪府支部大会、あちらのほうで安孫子さんの報告等がございましたね、私聞かせて頂きましたけども、話しの最後に『アマチュア無線をこれ以上地に落とさないこと。自分達自身で啓発をしなければいけない』ということとで結んでおられましたね。

JARLの役員方も、私自身もJARLのメンバーの一人としてももう少し、例えば法的な義務だとか、あるいはモラルの問題ですね、その辺りも先に免許を持った者が後輩を教える。コンテストと同じ位にJARLとして運動に取り組んでいく。こういう地道な運動をしていかないと、ズーッとこの問題は解決しないのではないかなと思いました。

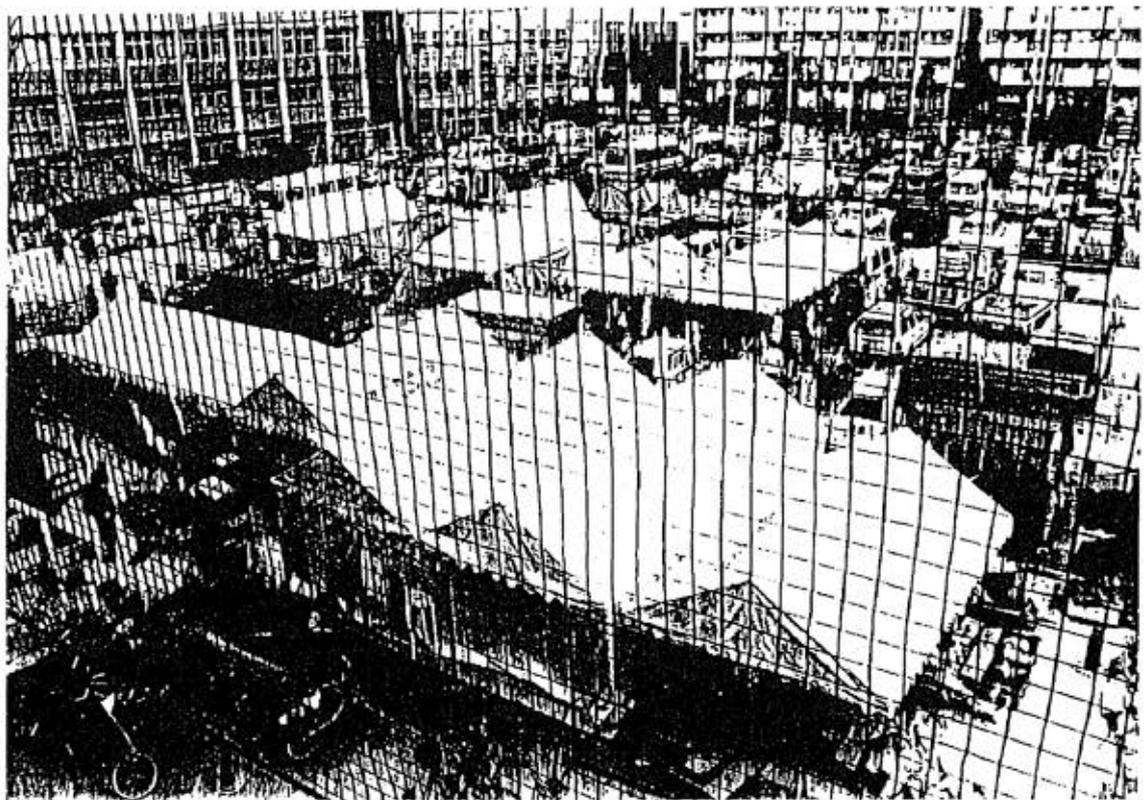
緊急通信、非常通信聞いていてそう思いました。レピーターを聞いていてそう思いました。

宮本：

それではこの次コナカさんよろしいですか。

コナカ：

私は8J3AMRという西宮の福祉事務所の中での運用になるのですが、此処の福祉事務所というのはどういう形態であったのかということ、先ず説明させて頂きまして、それから私どものグループはどういうグループなのかということの説明させて頂きます。それから皆さん方は経験談をいろいろ話しておられたのですけれども、僕



校庭は救援物資等の保管テントと輸送の自動車で占領

らは『これから先をどう考えてるのか』ということも、一部お話しをさせて頂きたいということで、少し時間を頂ければと思います。

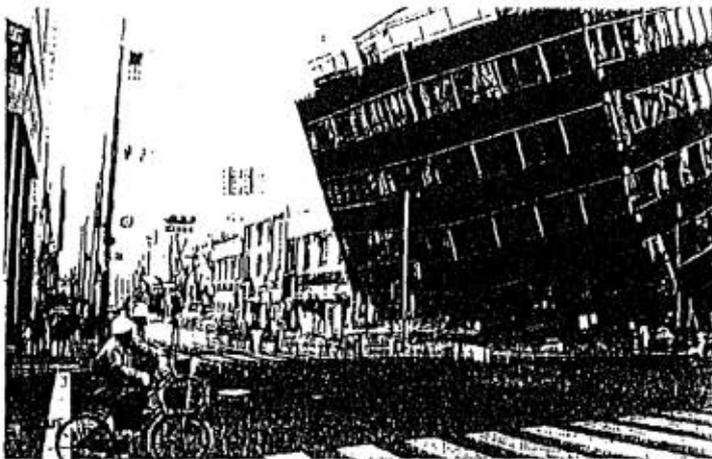
西宮現地事務所というのは大阪の福祉社会協議会が「どうも西宮のほうで、手が足りないであろう」ということで、厚生省のほうからの指示で西宮の現地事務所、芦屋市の現地事務所、加古川の現地事務所、それと一宮の現地事務所というようにして、全国社会福祉協議会連合がこれらの各地区に、災害復旧の現地事務所を作られました。

その西宮現地事務所の中で一ボランティアとして、なおかつ、アマチュア無線の運用が出来る私どもは約70局ぐらい、総数では相当な数ですけども、2月12日より4月15日迄、非常連絡周波数で基地局が閉局されるまで、いろんな問題が多々あったと思いますけども確実に運用をしてきたつもりでございます。

タカヤスさんとは昔に僕と交信して頂いてると思います。先程言われたように、モラル、これから指導していかないといけないと言われましたけれども、この様な酷い運用状態ですのでアマチュア無線界から退局される方が非常に多いですね。

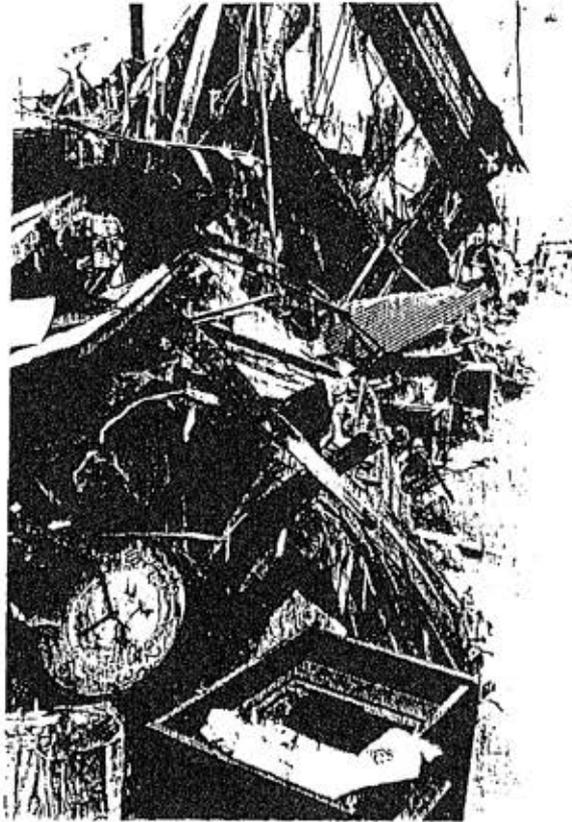
この430MHzのFMで、小さなハンディ機一つで、ちょっとしたアンテナが上があれば、大阪周辺の各局と交信が出来てる。こういう中で初めての人も出てこられますが、この趣味の王様であるアマチュア無線の運用でビギナーや後輩に昔から数十年の経験を持ってられる方々が、指導しているのかという辺りが全く電波の上で聞こえなかったというのが89年～90年代です。

私が運用開始しました当時、こんなことでいいのだろうかということでローカルのJQ3コールの数局が、「430MHzをどれぐらい使いこなせるのか、メイン周辺で約10年間使用してみよう」というようなことで始まったのがFTZ・FM愛好会です。オンエアミーティングは毎週土曜日、いま274回ぐらいまでいってます。使用する周波数は固定化しないでメインの近辺の432.90-433.10の間で混信がなく運用出来る所を選択して運用しています。



6階建てのビルが道路に崩れかけ全壊寸前

新しい方、障害を持っておられる方もたくさん出ておられます。僕らも聞き取ろう、向こうも話そうとするのですね。そういう方々に如何にアマチュア無線が楽しいものであるかを知ってもらうことが大切だということで、始めたグループでございます。



1995. 1. 17. 5. 46

表 神戸市9区における避難所等の状況

日付	1月17日			ピーク時(1月24日)		
	避難所数	就寝者数	避難者数	避難所数	就寝者数	避難者数
甲斐区	37	40,000	20,000	120	50,600	64,974
灘区	70	35,000	15,000	66	27,074	35,083
中央区	86	35,172	20,890	81	32,152	38,057
兵神区	93	26,300	18,070	93	25,800	25,800
北区	20	1,631	883	29	2,348	2,360
長田区	71	35,347	12,000	77	30,370	44,690
須磨区	67	20,000	6,000	69	14,804	21,720
垂水区	41	6,926	3,000	39	3,792	3,567
西区	12	1,467	1,548	15	827	630
計	497	202,043	98,291	589	195,567	236,890

なお5月11日現在も避難所数336、就寝者数26,545名、避難者数32,992名にのぼる。就寝者数は1日4回
の避難所で過こり人数。

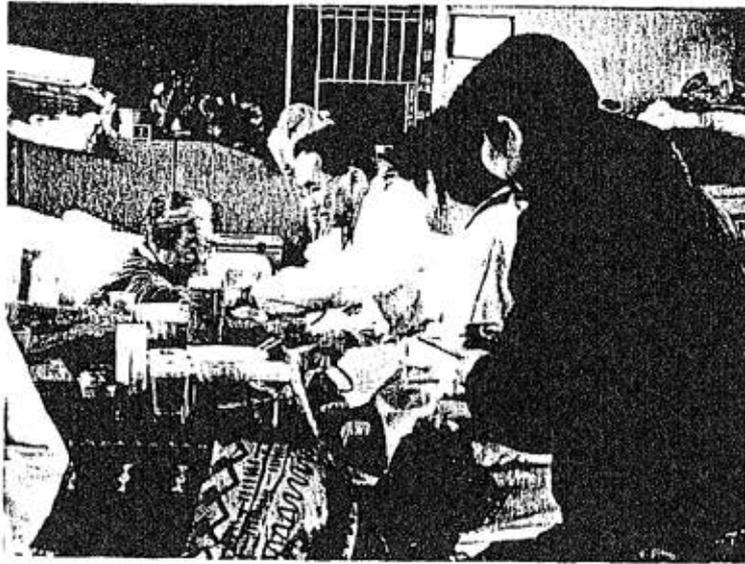
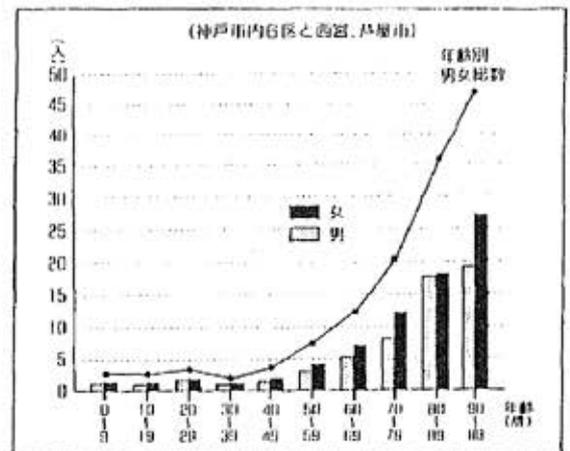


図 被災地の人口1,000人あたりの死亡者数



兵庫県内の震災による死亡者数

1995年5月現在

神戸市	東灘区	1,338	芦屋市	396	加古川市	2	総合計
	灘区	857	西宮市	999	洲本市	4	
	中央区	183	尼崎市	27	北淡町	38	
	兵庫区	442	伊丹市	11	一宮市	10	
	長田区	763	川西市	1	津名町	5	
	須磨区	309	宝塚市	83			
	垂水区	2	明石市	5			
	西区	2	三木市	1			
	北区	1	吉川町	1			
計		3,897		1,524		59	5,480

表 年齢と性差から見た死亡の危険度

年齢	住民数			死亡者数			死亡率(%)		
	男+女	男	女	男+女	男	女	男+女	男	女
0-9	142,635	73,075	69,560	194	91	103	1.36	1.25	1.48
10-19	194,618	97,684	96,934	240	94	146	1.23	0.96	1.51
20-29	209,324	102,170	107,154	385	179	206	1.84	1.75	1.92
30-39	181,787	88,687	93,100	197	92	105	1.08	1.04	1.13
40-49	223,847	109,504	114,343	400	162	238	1.79	1.48	2.08
50-59	188,344	89,482	98,862	685	277	408	3.64	3.10	4.13
60-69	138,080	62,437	75,643	868	331	537	6.29	5.30	7.10
70-79	77,446	30,914	46,532	819	250	569	10.58	8.09	12.23
80-89	31,146	10,973	20,173	562	195	367	18.04	17.77	18.19
90-103	3,212	935	2,277	80	18	62	24.91	19.25	27.23
合計	1,390,439	665,861	724,578	4,430	1,689	2,741			